

2019 滋賀幼美 Q&A No. 5 (2014~2018)

子どもの絵の **Q&A** かもしれない、

A とはかぎらない、

A のときもある

ほんとうの **A** は、その絵を描いた子どもだけがもっている。

そして、その **A** に出会えるのは、子どもとともに、子どもの
今を体験しているあなただけ。

文字のない絵本を読むように

子どもの絵を読もう

一本の線 一つの点 ぬりつぶした塊

そこに言葉をのせよう

笑顔といっしょに

そしておはなしをひろげよう

Q1 子どもの絵で色使いが気になります。相性の悪い色とか、いっしょに使わせない方がいい色の組み合わせとかがあるのでしょうか。

まず見なければならぬのは、その色使いをしている子どもの表情です。心地よさに浸っていたらそのままでもいいと思います。子どもの色使いが気になっているのはあなたです。あなたがその色使いに心地よさを感じなかったとしたらそれは、あなた自身に色使いのこだわりがあるということです。絵をえがく行為はすべての子どもが自由になれる行為です。子ども自らが自由に色を選んでいろいろ試すことを楽しめる環境づくりが大切なのではないのでしょうか。

Q2 絵の具の色はどんな色を用意したらいいですか。また、紫色はあまり出さない方が良いですか？子どもにとってあつかいにくい色ということを知ったのですが・・・

子どもにとって、扱いにくい色なんてありません。扱いにくさを感じるのは、どんなふうになるのがいいかを知って、そうならなかったときに感じるものです。絵の具と自分との間に起こるできごとを楽しんでいるとき、扱いにくさなんて感じません。どんな色を用意したらいいか。いろいろな色がたくさんあるのがいいに決まっています。けれども、絵の具でいろいろな色を用意しなくても、自然の中には無限の色が子どもの前に用意されています。空の色、花の色、地面の色・・・いろいろな色とその変化に気づかせてあげれば、絵の具は、そのとき用意できるもので十分です。

Q3 いろいろな色を使えるようにしているのに、単色でしか描かない子の読み取り方、その後の援助、環境の作り方など教えてほしい。

子どもは色で描いていません。線で描いています。描きたいことがどんどん浮かんでいるときや、描いている感触に浸っているとき、どんな色で描いているかなんて関係ありません。いろいろな色が用意されていても、色を使い分けしているのがめんどろになり単色で描いてしまうのはよくあることです。

そんなふうに単色で描いている子のそばに行き、子どもの方から何か話かけてくるのを待ちましょう。楽しんで描いているときは邪魔をしないで、一区切りついた時に話しかけてください。「何をかいているの？」という質問は子どもに失礼です。「楽しそうにかいていたね。」とか「すごくいっしょうけんめいかいていたね。」などその子のかいていた様子を言葉にしてあげてください。そして先生の方から「これ、わたしの大好きな〇〇に見えるよ。」とか、別の子に「〇〇ちゃんの絵、楽しいそうだね。◇◇ちゃんなら何に見える？」など、その子の絵を通してコミュニケーションを広げていくのもいいことです。

Q4 一つの絵の中に手足を描いている人と顔だけの人があります。(他の場面では描いていたのに、その時だけ顔のみとか)どんな声かけ、気づかせ方がいいのか？

子どもにとって絵を描くという行為は、自分の実力(できること)を大人(先生)に示すための活動ではありません。描きたい事を描くだけです。伝えたいこと、自分で確認したいこと、試してみたい事・・・いろいろ自分の都合で描いているだけです。歩けるけれど、四つん這いでいる子、話せるけれどだまっている子・・・みんな本人の都合です。絵を描く事も日常生活の一コマです。自分の思いのままに生活しているだけではないのでしょうか。一枚の紙に描いた絵は、全体としてまとまっていなければならないと思っているのは大

人だけです。白い紙の上は、子どもにとって自分が自由に過ごせる場所です。白いままで何も描かなくても、あちこちにいろんなことを描いても、その子の自由なのです。

Q5 絵の題材の決め方と画材や技法の選択の仕方

子どもの成長は、大人が子どもに与えるものではありません。子ども自身が成長すべきときに、自らの可能性のひとつひとつに子ども自らがスイッチオンしていくのです。大人は、子どもの成長をじゃましないように見守る、子どもの可能性を信じて待つ…そんな姿勢がまず大切。子どものスイッチオンを見逃さず、子どもの活動にそっとよりそっていき「ばんそうしゃ(伴走者)」でなければなりません。

そして、ときどき子どもの活動がよりひきたつように、彩りをそえる「ばんそうしゃ(伴奏者)」であることも必要です。ただそばにいただけでなく、もっと出来そうなことをやってみせていくのです。これが子どもに示す題材や技法です。先に取り組むのは子ども自身であることがとても大切です。大人は子どもの「ばんそうしゃ」に徹することそれがすべてです。でも子どもが、自分だけの力はどうしてものりこえられない「悲しみ」「寂しさ」「苦しさ」の中にいたとき、大人はそれを癒せる「ばんそうしゃ(絆創者)」とならなければなりません。一人じゃないと感じられるよりそいです。「絆」を「創る」のです。

絵の題材も技法もすべて子どもの生活の中にあります。外から大人が強引に持ち込むのはまちがいです。

Q6 5歳でどの程度の絵が描けたらいいですか？

今、その子が描いている絵を同年齢の他の子どもと比べることは、あまり意味がありません。その子がどんな絵を今まで描いてきてのかが大切です。そして実はどの子もその子なりに必ず成長しています。その子が描いているもの、こと、描く態度には必ず意味があります。

たとえ、発達の遅れていると見なされている子であったとしても、身体に障がいがある子であったとしても、今その子が描いている絵は、その子のすべてです。

その子のその絵をまわりの大人が大切にすること、関心をしめすことがまず必要です。線の長さ、線の濃さ、描いているときの表情、つぶやきから、その子の絵を読み取ろうとすると、かならず分かってくることがあります。

絵としては何も成長がみられないと思われるかもしれませんが、描いているとき数ヶ月前には発しなかった言葉を発していたり、線に集中している表情があったり、何か変わっていることがあるはずです。

Q7 絵を描くとき、隣り子を見て描く子がいる。それを認めても良いのか。指導をした方が良いのか…

まわりの子のすることに興味、関心を向けること、これこそが保育園や幼稚園での集団で生活するメリットです。絵を描くという活動においても、いろんな取り組み方があることを互いの活動から気付いていくことでしょう。

おそうじ、かたづけ、着替え、…園の生活の営みは、だれかのまねから学んでいっているものです。先生の指示を覚えて動いているというより、そうしている子を見てまねて身につけていっているのが子どもの成長です。

絵をまねることは、その子にとってはそうすることが必要な時期なのです。成長の段階、しかた、学び

方、みんな違うということ、そして、違うみんながかかわりあうこと、そういう場が保障されているとき子どもは豊かに表現することができます。

Q8 形の組み合わせでできる概念的なものを知らせていくべきか否か

例 ○二つで雪だるま □と○を組み合わせで車など

自分が描けるようになった○△□などの形を、自分の知っているものに「見立てる」のは、子どもの自然な発達です。子どもは、何かを描こうとして描くのではなく、とりあえず自分が描けるようになった線や形を描いて遊びます。そしてその描いたあとにのこった線と形をみて、見立て遊びをします。

人を描こうとするのではなく、描いた○を人に見立てるのです。だから○のままで人なのです。手や足が描けていないという指摘は無意味です。一本の線が「道」であったり「たっている自分」であったり、「地面」であったり…いろいろなものに見立てられる子どものやわらかな心を大切にしたいですね。

Q9 紙いっぱいダイナミックな絵を描く子、隅の方に小さく描く子、何が原因で違いが出るのか？ 体験や性格など色々考えられるが大きく伸びやかに描けるようになる援助、導入を知りたいです。

「大きくのびのびダイナミックと描いてほしい。」だれもが子どもに願うことです。でも、これって「みんななかよく笑顔で、元気に過ごしてほしい。」と願っていることに似ています。子どもの日常には確かに「みんななかよく笑顔で、元気」な時もありますが、四六時中そうしているなんて無理に決まっています。一人でいたい時、悲しい気持ちに浸っていたいとき、友だちの言動にいらいらするとき…いろいろな場面があって当たり前ですね。

絵も同じです。描いている絵の中には「大きくダイナミック」もあるだろうし、「隅の方に小さく」ということもあってあたりまえです。みんなの絵が一斉に「大きくダイナミック」になることはそもそもありえないことです。同じ活動をして、子ども自身が安心して自分の今の気持ちを絵にできる環境こそ「紙いっぱい」ではなく「園全体にダイナミックな造形活動」が展開されているということです。

紙いっぱいにつかって大きく描いている子の横で、そんなこと関係なく小さな絵を心をこめて描いている子がいる。そしてお互いの絵をみとめあえる雰囲気(環境)こそ大切です。

Q10 パス、絵の具を組み合わせた時、絵の具の濃度で「あゝ〜〜〜」と言われたことがある。子どもも楽しんで表現していたので自分ではよいと思っていたけれど、何日かたって見てみれば自分でも「あゝ〜〜〜」と思うのはなぜか。

造形表現には、思いをあらわすこと、行為(技法)を楽しむこと、用具や材料と出会うことという3つの側面があります。パスや絵の具との出会いが、子どもにとっていい出会いとなれる環境づくりが必要です。この場合、子どもも楽しんで表現したというのですから出会いとしては問題なかったのではないかと思います。けれども出会って間もないのに使いこなすことはできなくてあたりまえ、ましてや思いを上手くあらわすなんてことはまず不可能と思ってください。パスや絵の具に親しむその瞬間の感動が大切であり、活動の跡を作品としてみることに無理があると思います。

ただし、子どもにとって今日のゴミは、明日になると宝物に変わることが多いです。楽しい活動の残骸をまとめておいておくと、それを利用した活動が広がる可能性は無限です。

パスや絵の具を上手く組み合わせられるようになるには、まずパスとだけ出会う、絵の具とだけ出会う、そしてパスだけの技法を楽しむ、絵の具だけの技法を楽しむ、・・・こういった過程を経て初めていろいろな用具が組み合わせられるようになるのではないのでしょうか。

Q11 画用紙の大きさ、色、絵の具の濃さ 絵の具を何色か使用する時に混ざってしまうので、どの色を合わせるというのか。

子どもは、自分の表現力を大人に教えてもらって高めるわけではありません。すべての子どもは生まれた時から、豊かな感性と知性、そして強い表現意欲をその内に持っています。そのすばらしい力の発揮場所があれば、子どもは自然に表現してしまうということを信じてください。「この子には無理」という疑いの視線が、子どもの自由な表現を阻んでいる一番の原因です。どんな時も子どもは表現しています。ただその表現に気付いていないだけではないのでしょうか。

画用紙の大きさ、絵の具の濃さ・・・などは、いつでもどこでもだれにでも当てはまるものではありません。家庭の食事の献立のように、いろいろ変わっているような出会いがあればいいのではないのでしょうか。レストランの料理を家庭で目指す必要がないように、特別な材料、用具がなくても、今あるもので、工夫して子どもに提供すればいいと思います。

そして、食事でも与えられたものを喜んで残さず食べてくれるとはかぎらないように、造形活動でも、与えられた材料、用具が子どもにピッタリということとはなかなかむずかしいことです。子どもに嫌いなものを喜んで食べてもらうために料理方法を工夫するように、材料や用具も子どもの表情や反応を見ながら工夫することが大切です。洋服や靴は体の成長に合わせてサイズが変わっていきます。保育環境もその子のサイズがあるはず。そして日々サイズは変わっているはず。既製品の押しつけにならないように。

Q12 描いている間に題材から離れて好きなことを描き始める。だんだん何を描いているか分からないくらい塗られてしまうが本人は楽しそう。こういう時はどのように支援したらいいですか。

砂遊びをしている子どもにどんな支援をしていますか。山をつくったりトンネルをほったり、突然をそれを崩してまたはじめから山にしたり、・・・何かを目指しているわけではなくその行為そのものを楽しんでいます。

お絵描きも、子どもにとっては砂遊びです。その瞬間その瞬間に思いつくことを描いて楽しんでいます。何かを目指しているわけではありません。その一瞬の眼差し、つぶやき、表情など活動にうちこんでいる子どもの姿そのものが表現活動なのです。紙に残されたものだけを見て一喜一憂する必要はありません。

最高の支援は、ともに楽しむことです。

Q13 いろいろな用具に触れる機会を増やしたい。筆、ペン、パス、コロッコ以外にどんな素材で表現ができますか？

子どもが一番最初に出会わなければならないものは、自分の身体です。自分の身体の頭の方から足の先まですべて使いこなす体験が幼児期にはなによりも必要です。筆やペンの前に手や指で描く・描くというより触って跡を残すということでしょうか。手でできることの延長上に道具があります。まずなんでも手でやってみることが大切です。

指先と手のひらの感覚を豊かにすることを忘れてはなりません。「みること」、「きくこと」それ以上に「さわること」は、子どもが現実社会とかかわっていく上でとても大切なことです。写真や音声だけで、ものの実態をつかむことはできません。なんでも実物に触れることをこころがけましょう。

筆、ペン、パス、コロッコ・・・なんでも出会わせてください。それ以外には、拾って来た枝、石ころ、花の茎などは筆やペンになります。空き缶、ペットボトル、筒・・・など転がしたり、スタンプしたりして跡をつけましょう。特別に用具を用意するのではなく、身近なものをなんでも用具にして楽しみましょう。

Q14 絵をかくまでに、好きなあそびや生活の中で、感動体験をしても、思いが形・色で表出できない子。大好きな友だちのとなりでコピーのようにまねして描いている子。それでいいのか。

すばらしい絵はすばらしい感動体験から生まれるというのは間違っていないと思います。けれどもすばらしい感動体験はいつもすばらしい絵を生み出すというのは間違いです。動物園に行って実物のライオンに出会った衝撃は忘れられない体験であった子どもが、かならずすばらしいライオンの絵を描くということはありません。自分の忘れられない体験を絵にするよりも身振り手振りで一生懸命話そうとするかもしれないし、そのライオンになりきってライオンのまねをしてみせるかもしれません。

大好きな友だちのまねをする子は、大好きな友だちになりきりたいのでしょう。それぐらい大好きなのでしょう。子どもはその時々で、表現手段も表現内容も変わります。どんな手段でどんな内容を表現しているのか、子どもに謙虚によりそっているといろいろ見えてくるものです。

色と形で表現できないこともあることを受け入れた上で、その子が色と形で表現しようとしていることをみつける努力をつづけることが指導者の役割です。

Q 15 途中で気力(意欲)が切れたと見える絵 生活力が弱いからか？集中が続きにくく、途中で描くのをやめてしまう子どもに対しての声のかけ方や、かかわり方について

途中というのは、だれがそう思っているのですか。子ども自身は途中だと感じていますか。100メートルを全速力で走りきった時、100メートルはゴールです。けれどもマラソンで42キロメートルを走っているとき、100メートルは途中です。目指すゴールによって途中はさまざまです。子どもにとっての活動は、スタートとゴールが線としてつながっているわけではありません。ばらばらの点が、突然つながって線となり面となってその子のがんばりやすくてきなことが見えてくるのです。中途半端に見えるひとつひとつの体験もやがてつながっていくとその子の成長がうきあがってくるのではないのでしょうか。

大人が決めたルールの上を決められたスタートとゴールの間で活動するということが不自然なのです。保育の目標は、子どもが今(現在)をもっともよく生き、自分の望む未来を自らつくり出していく力の基礎を培うことです。

子どもの活動は不連続です。

Q 16 コンテの使い方 どのような題材がいいのか、など

こういう質問がでてくるのは指導者がコンテを使った経験があまりないからではないでしょうか。お箸や鉛筆の持ち方をすこしずつ教えていかなければならないと思いますが、コンテは使わなくても将来困ることはほとんどないと思います。だから、コンテを使いこなす大人はごくわずかです。

ほとんどの造形活動は、学校教育でも主要教科とはいわれておらず、好きな人がやればいい、みんなが取り組まなくてもいいとほとんどの人が思っているのではないですか。

でも人間は、文字や数字を生み出すよりずっとはやく、造形活動や音楽活動とともに生きてきました。人が機械でなく心の通った人間であるためには造形や音楽はなくてはならないのではないのでしょうか。

コンテは、コンテで遊ぶ、コンテでためすことが基本です。コンテは手でこすれます。

いろいろな色のコンテは、こすって色まぜができます。コンテであらわすのではなくコンテで遊ぶのがいいと思います。

一見将来に何の役にもたたないことを、多様に経験できることが豊かさではないでしょうか。まずあなたがコンテで遊んで下さい。

Q 17 すぐに「描けない」「できない」と言う子どもへのかかわり方

まずは、「よかったら描いてね。べつに今、無理に描かなくてもいいよ。」と言えるような設定が必要です。「みんなやっているんだから、あなただけやらないのはダメ」というようなかかわりはまちがいです。みんながやっていること、話していることはいつも正しいわけではありません。

その子が「描けない」「できない」と自己表現しているには必ず理由があります。でも、その理由を無理に詮索する必要はありません。どの子も「描ける」の前は「描けない」、「できる」の前は「できない」時があったはず。

あせることはないです。「描けない」「できない」と言う子は、自分から「先生、描けたよ、できたよ」と言える最高の喜びの時に後に残しているのですから。

Q 18 画面の余白が大きい時、そのままポストカードにできそうと感じる時と、もう少しまわりに表現があってもよいかなと思う時がある。そのような時の声かけは・・・

先生がそう思ったのなら素直に先生の気持ちや意見を子どもに伝えることはとても大切です。ただ子どもが先生に支配されていると感じていたら、その場には手作業はあっても表現活動はなりたっていません。先生や友だちの意見を受け入れるのも受け入れないのもその子の自由ということが保障されてさえいたら、先生はむしろ遠慮せず、先生の好きな色の話や絵のことを伝えていくべきです。

Q 19 すいかのとらえ方 緑が中で赤が外 これはこのままにしておいて良いのか緑が外ということを伝えた方がよいのか？

見た事を絵にするわけではなく、感じたことを絵にするのが子どもです。緑が中で赤が外のスイカ、白い空に青い雲、緑の花びらに黄色い葉・・・そんなふう描けるのは子どもの時だけです。やがてそうは描け

なくなります。大人になってこんなふうを描けていたらその子は画家になっていることでしょう。

Q 20 動物の形がとらえられていない子にどのように指導していったら良いのか

動物の形をとらえるとはどういうことでしょうか。動物園でキリンをオリの前で見た子は、キリンの顔は視野に入っていませんでした。目の前の大きな足しか見えなかったその子は園に帰って、画用紙に大きく黄色い柱を4本描きました。

牧場に遠足に行き牛を見ました。怖くて近づくことができませんでした。遠くでのんびり牧草を食べている牛はあまり動きません。遠くからみていると緑の中にぽつぽつと黒いかたまりがあるように見えました。園に帰ってその子は見た通り、緑の画用紙に黒いかたまりを描きました。

すてきでしょ。動物の形ちゃんととらえているでしょ。

Q21 すぐ「もうできた!」と言う子へのかかわり方

それで困っているのは先生だけですね。日常のいろんなこと「さっさとやりなさい。」とか「早くできた人から給食の用意!」なんて言われて、早くするとたいいはほめられるのに、お絵描きだけはそうじゃない。これは子どもにはなかなか難しいことです。

ふだんから、お絵描き以外のことでも、その子のスピード、その子のこだわりをできる範囲で尊重してあげる姿勢が大切です。

Q22 絵の中に自分(人)を描かない子(促すと描くが・・・)

「絵の中にぼくがいない?、絵の前にぼくはちゃんといるよ!」……

絵の世界と現実の世界は、ひとつづきでつながっています。いつでも絵の中にはいたりでたりできること子どもは知っています。

Q23 画用紙の色と絵の具の色のかねあいの難しさ

今日の空の色と庭に咲いたチューリップの色のかねあいは? そんなこと悩む人いないでしょ。子どもにとっては空もチューリップも画用紙も絵の具も環境のひとつ。あるものをどう生かすか、あるものから何を想像するか。それが楽しいだけ、

空の色は毎日変わります。画用紙も絵の具もその都度変えていけばいいのです。「やった今日の画用紙は黄色だ。お日様がぽかぽかだね。じゃー散歩の絵にしようかな」。こんな感じかな。

Q24 友達が描いているのをよくみているが、まねをしたりするなどの姿ではなく、描くことに対して意欲的ではない。描いていると、今まで描いた絵を線で消したりする。どのように、その子のことを認め声をかけていけばいいのか悩んでいます。

一番いいのは、そのことで先生が悩んでいることを、正直にその子に話すことです。幼児だから難しいことは通じないとか、気を遣いすぎる必要はありません。幼児は話すのは苦手でも、お母さんのお腹の中に

いるころから結構難しい大人の会話聴いています。

先生が自分のことで悩んでくれていることがわかれば、すぐに変えることはなくても、その子の心に信頼のエネルギーが蓄えられます。あとは描きたくなったら勝手にえがくでしょう。それは10年先かもわかりませんが。

Q25 4歳 まちがいや指摘で描いた絵を黒くぬりつぶしてしまう時の対応

4歳の絵に間違いはありません。ましてや指摘することなんか一つもありません。黒くぬりつぶしているのは、先生のまちがいを指摘している子どもの素直な反応です。子どもはたいてい先生のことが大好きです。だから先生に直接「ほっといてよ」と言えないだけです。

Q26 顔から手が出ている絵をかく子にどう伝えたら良いのか？

顔から手が出ているのではありません。丸い体に顔と手を描いただけです。顔、首、同体、お尻、足、手、そんなふうに人間はばらばらじゃありません。切り離すことのできないひとつの固まりです。丸い体がやがて楕円になり人らしく変形していただけます。

やっと丸が描けたのだから、それを人に見立てだけです。

こんなにちゃんと見ている子に、いったい何を伝えるようとしているのですか。

Q27 絵の中に文字や数字、英語を描く子どもの対応

その子は今、文字や数字、英語に興味をもっているのです。すてきなことです。

Q28 絵が小さくて画用紙がまだ余っている(余白がある)のですが、それはその子の表現としてそのまま受け止めるのか、まだ絵が描ける場所がたくさんあるので「ここにも描けるよ」と声をかけてもいいのか、どちらの方が良いのか悩んでいます。

悩んだときは、正直にその子に、「失礼だとは思いますが、先生にはあなたの絵はまだまだ描きことがいっぱいあるように感じているのですが、あなたはどう思いますか。よかったら教えて」と聞くことですね。

Q29 すべり台を描いていたはずですが途中黒くはげしくぬりつぶしています。何か気持ちがあらわれているのでしょうか…。最後までていねいにしあげられるような声のかけ方

絵の中にすべり台ができたなら、そのすべり台ですべてしてみたくなった、勢いよくクレヨンですべった。何回も何回もすべった。すべり台はすべった線で消えてしまった。こんなふう描く子。めずらしくないです。

楽しいの遠足の帰りの大雨が降ってきたことを絵にした子は、はじめに楽しい遠足の絵を画用紙いっぱい描いて、描き終わる画用紙いっぱいに雨をふらしました。真っ黒い線で楽しい遠足の絵は消えてしまいました。子どもの絵は、時間の経過もあらわしてしまうのです。すてきですね。

Q30 紙に空白が多かったり(絵が小さいなど)、黒色ばかりなど一色使いだったりすると「もう少し…」と口出ししてしまいがちですが、そのような絵はどのように見たらいいのでしょうか。そのままの絵にその子の良

さを見いだしたいのですが。

その子の描いた絵をそのまま受け入れる、それだけです。子どもはみんなピカソだと思ってください。あなたに理解できない絵だからこそ名画なのです。美術館に行ってみたらわかります。理解できない絵なのに立派に飾られていますよ。

Q31 制作など大好きで、広告を丸めて剣をつくったり、おもちゃのレゴなどでもユーモアな物を作り上げられる。しかし、絵を描く時も、作りあがったものには、常にキャラクターの人物を描く。どこまで声をかければよいのか。

子どもはその時に興味、関心があるものに夢中になります。だからといって一生続くなんてことは絶対にありません。必ず満足したら違うことをはじめます。いろんなことにいつもアンテナをはっています。突然今までとちがうことをやりはじめます。いろいろやってだんだんと自分のやりつづけたいことを見つけていくのです。3歳や4歳でピアノに夢中になっているからといってまちがっても将来ピアニストとか思わないことです。この子は幸いキャラクターに夢中になっています。そんなとき大人は将来キャラクターデザインの道を進むなんて思われないから幸せです。

Q32 4歳「スイカ」を題材に絵の具で表現しました。実物を見て目の前で切り、食べたあと、数日経って描いたのですが、イメージをとらえにくくひたすら絵筆で描くのを楽しむようでした。個人差があると思いますがイメージをとらえやすくする伝え方はありますか。

スイカを食べた経験は、スイカの色と形とだけが出会った経験ではありません。いっしょに食べた友達のこと、スイカを切ったときの感触、みんなの眼差し、食べたあとの皮の山、いろんなことを子どもは感じています。そんないろんな思いを絵にしているはずです。一人ひとりがその時のことを思い出しながら絵を楽しんでいること、それだけで十分です。

Q33 制作意欲があり勢いもあるけれど黒一色で描いてしまう子がいます。声かけをすると他の色も使うのですが、その支援が子どもにとっていいのかわかりません。

声をかけるのではなく、その子のつぶやきに耳を澄ます。その子の一瞬の表情を逃さないようにする。いつもいつもは無理でも、気になったとき、それから始めましょう。

子どもが満足な表情であれば、「この絵のおはなし聴かせてくれる、先生この絵のこともっともっと知りたい」と横にすわればいい。困った表情であれば「何かこまっていることある。先生に手伝えることあったら言ってね。でもこの絵のここは先生大好き」といって横にすわればいい。あとは子どもが教えてくれます。

Q34 見通しが持ちにくく、参加することに不安がある子への声のかけ方、援助の方法・・・「先生が描いて!」と見本を知りたがる。間違うと思ってしまっている子に対する対処法。

先生主導の活動を子ども主導に変えること。それだけです。子どもがまず動く、先生は伴走者です。だって、遊んでいるとき「先生、まず遊んでみせて!」なんてその子はいわないでしょ。

Q35 なかなか形にできない 3 歳児。なぐりがきが多い中、テーマを与えて描かせる方が良いのでしょうか。また、一斉でなくコーナーの一角で描かせる方が良いのでしょうか？ コーナーで活動すると描く子と描かない子の差が出る気がします。…経験も大切？!

すべての子どもに同じ時間に同じ活動をとりにくませることが、公平な保育だと思込んでいませんか。教育は教え込むことだと思込んでいませんか。すべての子どもはその内に無限の可能性を秘めていることを信じていますか。

「描かせる」という言葉の使い方に、あなた自身の責任感を感じますが、子どもは描ける環境があればかならず描くものです。あなたが描かせる必要はありません。

言葉を発する、歩き出す、オムツがとれる…教えてできるのではありません。成長を信じて喜んでくれる人たちの中で自然にできるようになるのです。信じて寄り添うことそれが大切です。なぐりがきは、自然に終わります。一斉に描かせるよりもいつでも描ける環境づくりが大切です。一人一人の成長の差はあってあたりまえです。成長のしかたはみんなちがうのですから。描いている子の横で描かないでその描いている子を見ている子は、描いている子からいろんなことを学んでいます。同じ場所にいろんなことをしている子がいっしょにいるということは、とても大きな学びの場であるはずですよ。

Q36 四歳児 いつも題からそれた自分の好きなものを描きます。描いている傍からあれこれ言わず、楽しんで描いているなら見守った方がよいですか。

絵を描くのは自由な活動です。けれども自由はなかなかむずかしいからテーマを提示するのは。テーマは自由に描くきっかけです。題からそれて自分の好きなものを描ければそれで十分きっかけとなっているのですから問題ありません。

ただ、先生の言っている言葉が正しく理解できていないのなら、それは絵の活動としてではなく言語の獲得を気にしてあげる必要があると思います。でも幼児期にはこんなことあたりまえの行動です。たぶん大丈夫です。

いつも題を与える先生からお絵描きが始まっているとしたら、それは変えていってください。子どもからはじまるお絵描きに!

Q37 四歳児 特別支援児 絵を描くことは好き、色を果物の名前覚えていて、絵がすべて果物になっている。果物以外を描くことが難しい。題材をイメージすることもできない。

すべての子どもはひとり残らず特別支援児です。みんなひとりひとりにあった特別なかわりかたを用意するのが、保育の基本です。色を果物で覚えていく、そして絵が果物になる。それはとても自然な流れですね。その子の学び方として尊重してください。他の子どももこの子と同じように自分なりの学び方があります。どの子も特別なオーダーメイドな支援を必要としています。既製品の押しつけ支援にならないように。

Q38 肢体が不自由な子ども(手指がうまく使えない)補助的にすぐ道具に変身できるアイデアはありますか？

一概には、なんともいえませんが、そもそも障がいというのは、みんなと同じことができないということだけなんです。鳥のように空を飛べたらどんなに素敵だろうと思う人はいますが、飛べないことを悩む人はいませんね。みんな飛べないから悩まない。むしろ自分だけ翼があって飛べたら悩むでしょう。

でも、表現活動はみんなと同じことをすることを求めています。みんなと同じことをするための手立てを考える前にその子にしかできない、その子がそのままですることを見つけていくことが大切です。

幼児の時期だからこそ、みんなとっしょに、それぞれが違うことをしている、違うことを感じていることをみとあう環境が大切です。

肢体の不自由な子は、心にその子だけの大きな翼をもっている子です。自分だけもっているその翼の存在をかくさなくてもいい仲間にまわりの友達がなれたら最高です。

ばらばらに見える個々の活動、差があって孤立しがちな活動、そんな活動をつないで一体感を感じられるようにするのが保育の役割です。絆創膏(ばんそうこう)になりましょう。そっとみんなを包み込んで「絆」を「創る」場作りが大切です。

Q39 続きを作って欲しいと思うが、作ったものを持って帰りたいという子がいる。続きを幼稚園で作っていい工夫

作ったものを持って帰りたいと思えるってとても素敵なことです。保護者に幼稚園でのこの子の活動ぶりを伝え、次の日、持ってきてもらったらいいのでは・・・

ただ、続きを作りたいと本人が思っているかどうかは、本人しかわかりません。でも、遠慮せずに、「先生お願いがあるんだけど、この続きつくってほしいな、」とお願いしたらいいと思います。「すてきだね」「上手だね」「かわいいね」というようなありふれた言葉がけよりずっと子どもはうれしいと思います。ただそれで続きをつくかどうかはわかりませんが。

Q40 大きなイメージ(共通のイメージ)をもって制作活動を進めています。想像力豊かにアイデアを出す子どもは、次々とイメージを形にして遊びの場を作っています。なかなかやりたいことが形になりにくい、イメージでできにくい子どももいて前者の子どもたちの主導で遊びが進んでいく現状があります。イメージでできにくい子どもたちに対して、アイデアを引き出したり、思いを形にしようと思えるような援助の仕方、環境の工夫を教えていただきたい。

みんなでっしょに一つのテーマで取り組むそのこと自体が、イメージのできにくい子や形になりにくい子へのもっとも必要な援助です。主導権を握っている子から、いろんな指示をだしてもらおうのは、大人が指示を出すよりずっと自然です。ただどんな活動でもいつも同じ子がリーダーにならないように工夫する必要があります。幼稚園や保育園では同年齢の集団や異年齢の集団など設定を変えてみたり、自分で選んだテーマごとの仲間と活動したり、いろいろ工夫していろんな子がリーダーになるようにしたいと思います。

Q41 今週ははじめに、先週の遠足での木の実ひろいの経験や、絵本を見たりする、実物をさわったりすることをふまえて、どんぐりを描いたが、色の出し方を悩んだ。どんぐりの色・・・茶、うす茶、こげ茶、きみどり色、

までは悩まなかったが、とらわれすぎ？と思い、桃、オレンジ、山吹も出した。そこで、もっと寒色系の色を出すことはしませんでした。それでよいのか。出して置いて子どもの選択にまかせたほうがよいのか。

遠足での木の実拾いの経験がそのままどんぐりを描くことにつながるとはかぎりません。

色遊びをしようと呼びかけて、その中でどんぐりを思い出したり落ち葉の色を思い出したりすることはあります。

遠足と色遊びをつなげるのか、つなげないかは、子ども一人一人が決めることです。

先生は、きっかけはつくれるけれど、決めるのは先生ではありません。

Q42 絵を描くことが苦手な子どもは、まず友だちのまねをして描くことが多いですが、ずっとまねばかりして描いていてもよいのでしょうか？

絵を描くのが苦手な子どもってどんな子どもですか。あなたがお絵描きが得意と思っている子はどんな子ですか。指導者のあなたは幼児の頃はどちらのタイプの子どもでしたか。

幼児はみんなお絵描きが大好きで得意です。ところが大人の視線や言葉がけで絵には上手下手があることを学んでいきます。一般的には見たままに写真のように描けると上手と言われます。でもアートの世界で活躍している人の絵はそんなことはありません。子どもの頃の下手を大人の評価を気にせず続けていくと大人になったら天才と言われるでしょう。

ただみんなが天才アーティストになる必要はありません。忠実に見たとおり言われたとおり描けたり作れたりする人は頑固な職人です。自分はなにもしないで人のしていることに口だけで参加している人は学校の先生にぴったりかもしれません。

幼児の活動は、いろいろあっていいのです。正解は一つではありません。その子その子が自分で決めた活動なら全部正解です。絵画は絵画制作ではなく絵画活動です。

Q43 制作活動に対して苦手意識があり担任の話の途中から「むり～」と言い出しなかなか取り組みはじめられません。「横に居て!」と言われて横に居ると「描いて」と言うので一緒に持って描いたり、励ましたり、イメージできるように声かけしてなんとか進めています。出来上がった物にも自信がなく、友だちに見られることも嫌がります。楽しかったと思えるようにするにはどうしたらよいのでしょうか。

「横に居る」ことはとても大切な支援です。人は心細いときとにかく「横に居てほしい」のです。あなたが横に居てあげていることは、すぐに結果としてあらわれることはないでしょうが、何年かしてこの子が勇気を出さないといけないときのパワーの源になっているはずです。

保育の役割は「伴走者」でいることです。不安な時さびしい時くじけそうな時、そばにだれかいてくれる、それだけで十分です。一緒にお散歩したり、砂遊びするようにいっしょにお絵描きしたらいいと思います。

Q44 こちらの思いとは裏腹に次の日につながらない。そんな状態から遊びをつなげたり、広げたりするにはどうしたら良いのか。

子どもはいつも「今、ここ」がすべてです。

Q45 先日遠足後バスの絵を描きました。少し私の書いたものを見せバスのイメージがわきやすいようにと思ったのですが、まねをする子が数名いたことに気づき見本を引きました。見本は3歳のこの時期どうなのでしょう。

3歳の子どもに全員に遠足のバスの絵を一斉に描かせようとするは、まず無謀な取り組みだと思ってください。たまたまできることもあると思いますが、ほとんどうまくいくことはないのがあたり前です。むしろなかなかうまくいかないほうが子どもはまともに育っている証拠です。

先生が子どもの絵のテーマなんか決める必要はないです。子どもが見つけていきます。

子どもが見つかるきっかけに先生がいろんなものを見せたりお話ししたり、描いてみせたりすることは必要です。でもそれは強要であってははいけません。提案です。

Q46 なかなか自分を出せない子どもに対して、どう絵を描くこと、制作など言葉がけをしていたらいいか教えてほしい。

自分を出せないのではなく、自分を出さないだけです。心を開くという言い方がありますが、開く前は閉じているはず。閉じたドアは開くことができますが、開いたドアはそれ以上開くことはできません。自分を出さない子は、自分を出すチャンスをうかがっています。こちらからこじ開けるのではなく、自ら開いて飛び出してくるのをゆったりと待ちましょう。

Q47 イメージのわきにくい子(イメージがわからず上手にかけなくて泣いてしまう子)に対する声かけ、アイデアは

何を描くか決めてからお絵描きが始まるのではないことを指導者は肝に銘じてください。大きく腕を回して深呼吸してみましょう。腕が自然に回っていますね。その手にクレヨンをもちましょう。大きな紙を自分の前に置いて大きく深呼吸しながらその手の動きをクレヨンで描きましょう。紙いっぱい大きな丸ができるはず。

大きな箱に画用紙を入れてアリさんを逃がしましょう。アリさんのあとをクレヨンでつけましょう。どんな線が見つかるか楽しみです。

紙をくしゃくしゃにして広げるとシワがついています。そのシワを色分けしてしたりなぞったりしましょう。いろんな形が見つかります。

何を描くか決めてなくても、お絵描きは困らないのです。

Q48 今、描画活動で白い画用紙ばかりを使っていますが、色画用紙はどういった時に使ったら良いでしょうか？ 使い方を教えていただきたいです。

また、色画用紙の使い方について何かおもしろい使い方があれば教えてください。

白い紙を人や動物の形(シルエット)に切り抜いて、黒い紙の上に置くとくっきり形が浮き出ますね。いろんな形(シルエット)からあてっこしたらどうでしょう。そのシルエットをいろんな画用紙の上に置いていて、子どもといっしょにお話しづくりしたらどうでしょうか。緑の紙は草原になったり、青い紙は空や海になったり、・・・、こんな活動から色の組み合わせで感じ方がかわることに気づけるといいですね。

Q49 ごっこあそびにつなげるのに空き箱などの製作あそびの導入の仕方、製作あそびをするのにどういう風に話をもっていったら良いか悩んでいます。

朝、入園してきたら空き箱の山が部屋の真ん中にあったら、何かはじまるはずですが。
並べている子には、「もっと並べようか」。積んでいる子には「もっともっと高く積もうか」。
見ている子には「先生、天井に届くタワーつくっているけど、手伝ってくれるかな」。

自然体でいきましょう。

Q50 子どもにとって絵を描くことはどんな意味があるのですか。

そんなことを考えている時間があったら、あなたもお絵描き楽しみましょう。
描きたい、手をつなぎたい、お話したい……やりたいことをして楽しみましょう。
頭で考えるのではなく、心だけで感じるのではなく、先生自身も全身で保育を、そしてお絵描きを体感してください。

オムツがとれる 這い這いから立って歩く お箸でご飯を食べる 言葉を発する

みんな自然にそうになっていくもの…子どもは自然なのです。

アブラナがアブラナの中でささえあって成長するように

人間は人間の中でささえあって成長していきます。

だから

教えるけれどおしつけない

繰り返しやってみせるけれど結果をあせらない、

そのままを温かな眼差しで見守りつづける。

信じて待つ。それだけです。

.....

子どもは、まずやってみようとするはず。

それは、けっして大人のもとめるものではない。

けれども、大人は、その子のすることをすべてうけとめなければならない。

ちゃんと、うけとめて、ちゃんとかえすこと

そのくりかえしで、子どもは、ちゃんと取り組むことを学んでいく。

ピッチャーがストライクを投げられるようになるためには、

どんな球でも受けてくれるキャッチャーがいないとだめ。

子どものどんな表現も、ちゃんとうけとめて ちゃんとかえしていく

そのくりかえしで、ゆたかな表現力は培われていく。

大人は名キッチャーでなければなりません。

.....

子どもは、絶え間なく成長している。描いているときも、描いていないときも。話しているときも、だまっているときも。大人を喜ばす「すごい」ことをしたときも。いつもの「あたりまえ」のことをしたときも。大人を困らす「まちがい」をしたときも。

子どもは、絶え間なく成長している。その成長は、大人の眼差しの外で起こっていることがほとんど。出会えた成長だけが子どもの成長ではない。どの子のいつでもが「すごい」こと忘れないで。

.....

2015

Q51 3歳児で経験させてあげたい技法は何ですか。

人としての身体機能の基礎が確立される時期です。「見る」「聞く」「触る」活動がつながりをもつことが大切です。散歩に出かけてタンポポの花を「見る」、先生に「その花がタンポポという名前であることを聞く」そっと「触る」、お日様の暖かさや風を肌で感じる・・・そういったことが一つのこととして経験させてあげることが大切。特に造形表現では、手の活動を体験させる。手で直にコンテの粉をこすりつける、粘土のドロをぬりたくる、そういうことをして手のひら感覚がみがいていくことが大切です。

まずは手で描く、その延長に筆やクレヨンがあるのです。指で色をぬっていったらやさしくていねいに描くことが実感できるでしょう。指先が気持ちよく動いていくその感覚がわかるはずです。

手のひら感覚を育てることはすべての技法のスタートです。

Q52 4歳児 筆との出会いをどのように取り入れたら良いですか。いきなりテーマに沿ったものを筆で描くのは難しい。

出会いは、ゆっくり、少しずつ、子ども自身から近づいていく、そして仲良しになるものです。人でも物でもいっしょです。5歳児が楽しそうに筆でえのぐ遊びをしている姿を見て4歳児は憧れを持つ時間、それが最初の出会いです。教室の机に花を飾るように、先生が筆を使っているものに色をつけて環境づくりをしているところを子どもに見せるなど・・・実際に子どもが筆を使うまでに、筆を使っている場面に子どもが接していることが大切です。えのぐを使ったあとの後片付けもちゃんと子どもたちが見ているところでやりましょう。子どもは大人のしているようにやるものです。

日常生活で必要なことは、みんなそんなふうにして出会い身につけていくものではないでしょうか。

Q53 筆圧の弱い子への言葉がけについて。「強く描いてごらん」だけでは力がついていかないように思います。自信を持てると、強く描けるようになるのか。・・・

小さな声、弱々しい線、たどたどしい行動・・・始まりはそういうものです。弱いとか小さいとかを気にするより、まちがいでなく自らの表現を始めていることを受け止めてあげてください。大声でもささやきでもその子の表現です。繰り返し繰り返しつづけていくことで「丁度いい」がわかるようになります。

アクセルの踏みすぎの子は横着、ブレーキの踏みすぎの子は引っ込み思案、どちらも強く踏んでいるんです。やがて子ども自らがちょっと力を緩めると「丁度いい」が見つかる、そういうものです。

Q54 テーマを決めて絵を描いていると、ぐるぐると黒で描いて「できた!」と自信いっぱいに見せてくれる(4歳児)。どう反応すれば？

子どもの自信いっぱいの笑顔で「できた!」という姿を、先生はいろんな場面で求めていると思います。子どもはその先生の気持ちに応えているだけです。生活のいろいろな場面で出す先生の指示「〇〇してください。」「〇〇をかたづけてみましょう。」「・・・それに一生懸命応えているだけです。先生がテーマを決めて「〇〇の絵を描いてね」というのは、先生の絵をお手伝いしているのであって、その子が自発的に絵を描いているわけではありません。だからこんな時は、「ありがとう、先生の描いてほしいもの描いてくれてうれしいわ!」と答えるか、「ありがとう、早くできた君にはもう一つ描いてほしいものがあるの、こんどは君が先生に見せたいもの描いてくれる! お願い!」と・・・そんな感じかな。

Q55 観察をしてトマトをかいていると、桃や他のものもでてくるこのままでいいか。

観察してトマトを描くというのは、きっかけです。トマトをみてその通り描くという行為は、子どもには必要のないことです。観察ではなく、トマトを手にとって、重さ、硬さ、香りなどを感じ取る、そしてみんなで食べる、トマトを好きな子が喜んで食べる様子、嫌いな子がいやそうな顔をして避ける様子、すべてがトマト体験です。そんな体験をきっかけに、絵が生まれます。

トマトを描いているとき、桃や他のものを次々に思い出していけることは素敵なことですね。果物だけではなく、売っている店や、果物の木、フルーツのお菓子・・・どんどん描くものが増えていく、大切な成長です。

Q56 題材を決めて一斉に描くのはムリがあるのかな？ 自由な時間に描きたいものを描くという方が子どもたちにとって自然なのでしょうか。

日常の遊びのすべてを先生が設定しませんよね。でも、子どもたちの遊びに対して、「それならこんなこともできるかも」とか「こんなこともしてみたら」とか、「先生、こんなことしてあそぼうと思うけどいっしょにやらない」など提案しますよね。

絵を描くことも遊びです。まずは自由に、そしてときどき新しい出会いを提案してみたらどうでしょうか。子どもにとって自由に描くことが自然というより、子どもそのものが自然です。だから先生も遠慮せず、いろんな提案を子どもたちにしていってください。ただし先生の提案をみんなが受け入れることは稀です。むしろ先生の提案通りにみんながとりくんだったら、どこかに指導のまちがいがあると思ってください。

Q57 3歳児担任です。初めての集団生活で初めてのことに抵抗を感じる人が多いので、初めてクレヨ

ンを使うとき抵抗なくできる活動はどんなものがありますか。

「好きな絵」はとても難しいようです。クレヨン遊びのレパトリーを知りたいです。

はじめてのお散歩は抵抗があるものです。そんな時先生が手をつないでいっしょにお散歩しますよね。はじめてのクレヨン、紙の上のはじめてのお散歩です。先生が好きな色のクレヨンをもって描く線のあとを、その子が好きな色のクレヨンをもって、先生の横にならんで線を描いていく、ときどき立ち止まって「どっちに行く？」と聞いてみる。そんなことをしながら少しずつ主導権を子どもに委ねていけばいいのではないのでしょうか。

Q58 普段のコーナーでの遊びで絵を描くことがほとんどなくて一斉に描く時も自信がないような姿がある。悪循環になっているのかなと思っていて、どうしたら普段から描くように(描く楽しさを味わえるように)なるのか迷っています。(紙の大小とかは用意しています。)

絵を描くという活動はクレヨンやペンで描くというだけではありません。地面に石ころや落ち葉を並べる、プールサイドに足あとをつける、いろんなところに「描く」活動はあります。自ら描かなくても空の雲をみて、その形をいろんなものにみたとたり、園庭の植物の四季の彩りに気づける時間をとったりすること、「見る」「聞く」「触る」「感じる」「考える」が一体となる活動をいっぱいつくってください。そして、楽しく描いている子といっしょにいるだけの時間も大切にしてください。全部含めてすべて絵画活動です。

Q59 一色の色しか使わない子は好きな色を楽しんでいるからそれでいいのか、他の色も進めたほうがいいのか教えてください。(3歳) 紙の色は何色を使えばいいですか。

そうです。楽しんでいるときはそのままいいのです。いろんな色に出会える環境があり、いろんな色を使っている友だちがまわりになれば、子どもはみんなのしていることからいろんなことを吸収しています。子どもは自分がしたことだけでなく、みんながしていることすべてを自分の体験として学んでいます。いろんなことをしている友だちが同じ場所にいる、それがとても大切です。みんなが同じことしかしていない時間は学びは少ないはずです。

Q60 顔をピンクや青などすてきな色で描く子に声かけをするべきか(5歳児)

声をかけることより、その子によりそってください。描いているときのつぶやきや表情から、必ずその子がそうしている理由が見つかるはずです。表現活動は、みんなと違う自分を表現できる活動です。でもまわりを気にして本当にやってみたいことができない子が多いように思います。日常生活ではみんなと同じようにしなければならぬこともあります。けれども表現活動(絵画活動)は同じでなくてもいいのです。白い画用紙はその子だけの世界なのです。

Q61 4、5歳児で頭足人の絵を描く子には声かけをしてもいいのか。

そもそも「頭足人」という言葉があるのは、それが子どもの絵の特徴だからです。ただ4、5歳になると「頭足人」を描く子は減ってきます。ただ、そのとき少数派が劣等感を感じることや、「頭足人」を卒業した多数

派の子が優越感を感じるようになっていくことが問題です。ゆっくり成長していく子と急いで成長していく子がいます。その自分なり成長の仕方を認め合える仲間であってほしいです。先生の声かけと眼差しから「この子まだ頭足人で描いている。だいじょうかな。」というような不安を本人やまわりの子どもが感じとったとしたらそれは悲しいことです。殴り書きも頭足人もどんな絵もすべて、その子の思いがこもっています。その子に謙虚に寄り添いつづけていれば必ずその思いを受け取ることができます。

Q62 大きい画用紙に小さくしか描けない子にはどうすればいいか。本当に描くことが嫌いな子、描けない子への声かけや援助、形を知らせた方がいいのか。

園庭の地面に木切れで落書きするとき、どんな大きな絵を描いても園庭いっぱい描くことはまずありません。園庭の片隅にちょこっと落書きするだけです。大きな画用紙はその子の園庭です。どんな遊び方をしてもいいその子だけの園庭です。小さく遊ぼうが大きく遊ぼうが自由であることが画用紙も園庭も大切なことです。

絵を描かない子、嫌いな子、そんな子はいません。ただ、今ここで描かない子、今ここで言われたように描くのは嫌いな子はいます。いつでもどこでもお絵描き大好きなんてことはありません。

楽しく描いている友だちの様子を「見る」「声をかける」だけで描かないでいることも子どもの絵画活動です。絵画活動とは「描く」だけではありません。友だちの絵を「見る」という活動も含まれています。何もなくても「見て」「聞いて」いろんなことを吸収しています。そしてやりたくなったらやるだけです。

大人だって、みんなとカラオケにいった歌わないで横で手拍子して楽しんでいる人もいます。いっしょにいることが大切な時間なのです。

Q63 お人形さんのような絵(ウインクしている。ドレスをきている)を描く子がいて、まわりの子がそれをまねしている。どうすればいいか。

まねができるようになることは素晴らしいことです。社会の進歩はみんながまねができたからです。小学校に行ったら黒板の字をそのままうつさなければなりません。まねができる力は自らつくりだす力とともに生きるための必要な能力なのです。お人形さんのような絵をまねすることを気にしておられると思いますが、何をまねするのかより、まねをしようとする活動が大切です。子どもはお人形さんの絵の描き方を身に付けているわけではありません。お人形さんの絵でまねする力をためているのです。

Q64 テーマのある絵(遠足、運動会、家族など)の時は、どんな導入が楽しいか。3歳でテーマを示すと外れる子がいるが、テーマを示さないで自由にするのが良いのか。

全員にあてはまるテーマはまず存在しません。与えられたテーマがピッタリの子もいれば、まあまあ合っている子もいます。そして、まるっきり外れてしまう子もいます。それが当たり前なのに、お絵描きは決まった時間にやって先生がテーマや題材を考えるもの、そしてみんなをうまく一つのテーマの絵に導くことが良い指導という思い込みをはずしてみませんか。

先生がテーマや題材を提案してみることは悪いことではありません。けれども子どもが先生の言われたようにするというのは表現活動とは懸け離れたものです。先生の提案は子どもが描きたくなくなるきっかけで

しかありません。

保育園の絵のテーマが、遠足、運動会、遠足などイベントが多いのが気になります。もっと日常生活の普段のようすが絵になってもいいのではと思います。

「さっき友だちと楽しくしていたときのこと、先生に絵で教えてくれる!」とか、絵を描くことがお話することと同じぐらい身近になったらいいなと思います。

Q65 絵をかくまでに、好きなあそびや生活の中で、感動体験をしても、思いが形・色で表出できない子。大好きな友だちのとなりでコピーのようにまねして描いている子。それでいいのか。

友だちが楽しそうにしていることをまねすることは、学びそのものです。まねしてそこに自分なりの考えが加わって新しいことをする。それをまたまねされた友だちがまねする。まねをし合うことでみんなの学びが高まるのです。

コピーのようになりの子の絵をうつすことで、となりの子の思いを感じ取ることができます。でも、その時、かならず自分の思いも広がり深まっているはずで。

日常の感動体験のすべてが絵になるわけではありません。それをどう表すのか、表すことなく自分の心の中に温めておくのかは、その子自身が決めることです。

Q66 描いているうちに画用紙いっぱい絵を描く子ども。楽しんでいる姿を大切にしたいと思い、見守っていたが止めるべきか。他に画用紙をもう一枚渡すなどしたほうがいいのか。

子どもはただ描きたいだけです。作品として仕上げるという目的で描いているわけではありません。もし、先生にその目的があるのなら、そのことを子どもたちにきちんと伝えることが大切です。自由にお絵かきしている時と、目的があるお絵かきをする時などいろんな活動があったらいいと思います。子どもにすべて任せているふりをして実は作品をつくらせているというようなごまかしはやめましょう。

楽しんで描いていたならそのまま見守るのが自然でしょう。

Q67 模様や字ばかり描く子どもに対してのかかわり方。

今、この瞬間、模様や字を描いているだけです。その時その時の夢中になれるものをやりたいたけやったら必ず次の新しい活動が広がります。好きなことをして遊んでいるのだからじゃましなかつたらいいだけです。模様や字を描けることは、これから字を覚えて読んだり書いたりする上でとても大切なスキルです。そのことに興味を持って自分から進んで取り組んでいることを大切に見守りましょう。

Q68 絵はその日のうちに描きあげてしまったほうがよいのか。絵の具を重ねぬりするときかわかす時間をとってあげる？

絵のゴールを決めることはたぶん本人でもむずかしいことです。その続きをすることもあればしないこともあります。忘れたころに思い出してまた描き始めることもあります。そもそも絵というのはそういうもので

す。先生が子どもの絵のしあがりの段取りをしても、すべての子どもがそれに従うはずがないということを知ってください。その上で先生からの提案はどんどんしてあげてください。先生の提案が子ども自身のイメージを広げるきっかけ「なることも」あります。必ずなるものではありません。ならなかったから失敗というのでもありません。

絵の具の乾く時間をとったあと、つづけるかどうかはその子が決めることです。でも乾かす時間をとったから絵の具が濁らず描けることに気がつきっかけは、先生が提案することでできることを忘れないでください。

Q69 お話の絵を描く時に絵を見た後、絵本をおいとくべきか、片付けるべきか？

絵本を読んであげたら、そのあと自由にみられるように置いておくのが自然です。お話の絵を描く時を決めるのは子どもですか、先生ですか。展览会やコンクールに子どもの活動がふりまわされていませんか。絵本を読んでもらったあと、それを絵にすることもあれば、そうしないこともあると思います。展览会などどうでも描いてもらわなければならないときは年に1度か2度です。年に1度か2度の作品づくりだけが子どもたちの絵画活動だとしたらさびしいことです。それよりも日常生活の中で自由にお絵描きする時間を大切にするようにしてください。子どもはイベントで成長するのではなく、なんでもない日常の中で成長していきます。ただ子どもの思いを大切にすることと子どものいいなりになるのとは違います。どんどん子どもにかかわって行ってください。

Q70 画用紙の色はどう選んだらよいのでしょうか。

画用紙の色はまず白を選んでください。クレヨンや絵の具の色がそのまま分かるからです。色画用紙だとそのままの色がわからなくなることがあります。まずは、自分がどんな色で描いているのかがはっきり分かるためには白が基本です。ただ描く用紙は白に統一するというのは不自然です。白い画用紙というのは日常ではすごく特別な世界です。身の回りで真っ白はそんなにありません。ダンボールや新聞紙など、文字が印刷してある上で気にしないでお絵描きしたらいいと思います。木切れやビンや石ころにもお絵描きしましょう。クレヨンならだいたいのものに描けます。そして、ときどき色画用紙にも出会わせてください。白いクレヨンの使い道に困っている子には黒い画用紙に出会わせてください。

Q71 テーマに沿って絵を描く活動と、ぬたくりや線遊びなどの活動をどういうバランス、順序でしていけばよいのか。

お絵描きの楽しさは、描く感触の楽しさ、描く時間に浸る楽しさ、自分の思いを色や形にする楽しさなど子どもにとってさまざまです。同じ材料用具でのお絵描きを楽しんでも子どもの楽しみ方は違ってあたりまえです。先生がテーマからお絵描きをやらせても、子どもはぬたくりや線遊びをするかもしれません。

先生がぬたくりや線遊びをやらせても、子どもはテーマを決めて描くかもしれません。バランスは子どもがつくっていくものです。気をつけなければならないことはテーマに沿った絵の活動は、子ども自身がテーマからはずれたことを自覚したとき失敗感をもってしまいます。だからぬたくりや線遊びを多くした方が自由な表現を子ども自ら楽しむことができ失敗感や劣等感を持つことはありません。

Q72 絵の苦手な子が取り組みやすい教材は？

小さめの白い紙を真っ黒に塗りつぶす、次は赤に塗りつぶす、青に塗りつぶす、次々にいろんな色に白い画用紙を変えていく…塗りつぶすのだから何かを描く必要はないけれど、ただ塗りつぶす途中でいろんな絵がためせます。

○△□で画用紙をいっぱいにする。描いているうちにいろんなイメージが湧いてきます。○△□が描けると何でも描けます。

絵筆をもたずに宙にいろんなものを描く「エアーお絵描き」はどうでしょうか。腕を大きく上にあげそのまま丸く腕を動かしてみる、大きな丸が自分の前に描けたことをイメージさせてください。そしてその丸に何かをつけたしてみましょ。いろんな絵がえがけます。

遊びやゲームは、すべてルールがあります。絵画活動も遊びやゲームとして設定してください。ドッジボールでも鬼ごっこでも得意な子と苦手な子はいてあたり前です。苦手な子を遊びに参加できるようにするためにはルールを変えたり場所を変えたりして工夫すると思います。絵画活動もルールや場所をいろいろ工夫して参加しやすい状況をつくれればいいのです。参加するということは、みんなと同じようにすることではありません。まずはみんなといっしょにいること、それが参加です。そのことを大切に先生も急がず楽しんでいろいろ試してください。

Q73 4歳児で○△□の形をつなげて雪だるま(○と○)などイメージして描くことは必要ではないのか。今何度も繰り返している。

何気なく描いた線の描き始めと描き終わりがつながると、形となりそこにいろんなものを見立てるようになります。4歳ぐらいになるとその見立てた形を組み合わせ、いろんなことを説明したり表したりするようになります。描いた形の上手下手にとらわれず、その描いたものにどんなお話をつないでいるのが大事です。

何度も繰り返すことはとてもすてきなことです。そばに行き、その子につぶやきに耳をすませてください。

Q74 どんな絵でも画用紙いっぱい丸を描いてうめる(3歳児)。それをおばけと言って満足そうにしている。このままでいい？

○が描けて、それを何かに見立てられる。それができればなぐりがきの卒業です。おめでとうございます。このままいいのです。3ヶ月もたてば違うことをやりはじめます。違うことと言うのはどんどん上手くなるということではありません。またなぐりがきに戻ることもあります。成長は行きつ戻りつです。

Q75 間違っと思うと新しい紙をもらいにくる。がんばったところを褒めて認めていくが、子どもが納得していないときどうすべきか。

「間違っと思う」のはなぜなのでしょう。「がんばったところ」とそうでないところは、何がちがうのでしょうか。褒めて認めることを繰り返していると、認められる絵を描かなければならなくなり、ますます自由に描けなくなります。絵は描きたくなったら描いたらいいのです。間違ってもいいのです。

幼い子どものする事、話す事、考える事は全て、間違いがスタートです。納得いかないことだらけです。だから工夫が生まれるのです。

間違ったと子どもがいったら、先生は「そこ！先生大好き！」と叫びましょう。まずはそこから・・・

Q76 5歳児 絵を描く力はあるが、途中でふざけて雑になってしまう。また怒った顔を必ず描くのですが。

怖い顔、怒った顔、寂しい顔、笑顔・・・どの顔も大切です。笑顔は素敵だけれど、絵に描くのは笑顔でなければならぬわけではありません。この子はきっと絵は好きなように描いても良いんだと思っていないのでしょう。自由に思ったことを表現したいのに、そうしてはいけないというこの子の思い込みからくるいらだちが怒った顔の絵になってしまっているのかもしれませんが。無邪気に描くことを楽しんでいる友だちをみてますますいらいらふざけてしまうのかもしれませんが。

5歳になってからこういう態度をとるようになったのなら、自分と他者の違いをみられるようになった成長のあらわれでもあります。今までとちがう5歳の自分をどう受け入れていいのかわからないだけです。あたたかく寄り添ってあげれば、ふざけることも怒った顔も卒業するはず。子どもの成長は目に見えません。けれども半年たつたらびっくりするほど成長していますよね。子どもが成長していない時なんて片時ありません。

Q77 子どもの気持ち、意欲、表現の自由は大切にしたいが、作品展への出品や保護者の評価など、大人の目線や都合で「描かせよう」としてしまふことがどうしても出てくる。子ども自身が「描きたい!」「楽しい!!」と思えるために一番必要なことは？

どうしても「描かせよう」と思って取り組むことの反対を どうしても描かせなければならない時以外のゆったりとした時間にやればいいのです。

作品展に出品しないとき、保護者の評価が不可能な取り組みを思う存分やればいいのです。作品を残さなければいいのです。作品を残すのではなく夢中になって取り組んでいる一人ひとりの表情を写真に残しましょう。仲間の中で安心して活動している子どものベストショットは保護者の宝物になるはず。必ず。

Q78 幼い絵を描く子(例えば 5歳で頭足人を描く)への声かけ、指導法は。描き方を教えた方が良いのか？ 本人は他の子と比べて苦手さを感じている。

幼児の教育は、その子の可能性を引き出すことです。教えることは限られています。まずはいろんな表現(幼い表現)も安心してできる環境設定からはじめましょう。車の教習所といっしょです。教習所ではまわがった運転してもらいたいようぶです。いつも隣に先生がよりそっています。教習所とちがうのは、車の運転ができるようになりたいという思いできている人にいろいろ教えるのではなく、子どもが安心して好きなことができるようにただそばにいる。そのちがいが保育のポイントです。

Q79 3歳児 今はまだいろいろな線遊びをしています。一年間でどの程度経験しておくよいか。

お散歩はどの程度やったらいいか、お昼寝はどの程度やったらいいか、・・・そういうのはすべて子どもの状態で決めているはず。子どもの日常でいろいろやっていることの中にお絵描き、線遊びが位置づい

ていたら、それと同じように、子どもの状態で決めたらいいのです。

食事と同じです。子どもの日常をみていたら、どの程度がその子にいいか分かってくるはずですが。基本的には、子どもにまかすこと、でも、時々「あの山まで登ろう」とチャレンジさせるように、「大きな紙を真っ黒にぬりつぶそう」と先生が子どもに挑戦状を突きつけることも大切です。

Q80 イメージがわきやすいように保育者の見本をみせることはいいのか。

イメージ豊かな子どもとイメージを持ってない子どもの違いってなんですか。子どもはみんなその子ならではのイメージを広げています。そして、それは保育者が意図的に見せるものからだけではなく、自分の目にするもの、聞こえてくるもの、触れるものすべてからイメージをつくっていきます。保育者の子どもへの期待や予想をはるかに越えているイメージを子どもは育んでいます。それを表す方法を子どもは持ち合わせていないのです。

だから、保育者が見本をみせたり、やってみせたりすることはどんどんやってもいいと思います。ただそうしたからといって保育者が求めるイメージと子どもがもつイメージとはいっしょになるとはかぎりません。そういうものだという事胆に銘じておいてください。

Q81 太陽や雲を毎回絵のどこかに描く(雨降りの絵でも)子どもや、それをみて「僕も」「私も」と続々それがクラスに広まっていき、みんなが太陽と雲がある状況に…
“私”これかける!!という自信なのでしょうか。

太陽と青い空に白い雲、自分が立っている大地の線(基底線)。それは気持ち良さと安心の象徴です。もともとお日様はいつも照っている、その下で雨がふっているだけ、見えるものでなくあるものを描いている。どんな時にも空には太陽と雲はあるはずですが。

次の日に何か楽しいことをする時はいつも「明日天気になりますように!」と照る照る坊主を作ったりすることはあっても、「明日雨がふりますように!」とは言わないと思います。楽しいお絵描きには太陽や白い雲を描きたくなくなるというのはごく自然なことではないでしょうか。

Q82 テーマを出した時、例えば虫を描く時に虫そのものを見せたらいいのか、絵本などにのっているものを見せたらいいのか、どちらがいいですか。(特にイメージが持ちにくい子には)

虫に出会う、虫の絵本に出会う、そして虫が描きたくなる、そして虫を描く。

または、線遊びや色遊びをする。「ここは虫の世界です。」「さかなの世界です。」子ども自身が虫になったりさかなになったりして遊ぶ、そのことを偶然できた形の中に見つける…。

どちらにしても、見る、聞く、体で感じる活動がイメージを生み出します。テーマは出してもきっかけにすぎないこと忘れないでください。

Q83 絵本を題材に描画活動をするとき、イメージをもてる子どもはさっと描き出しますが、なかなかイメージがもてない子には、どのような言葉がけやかかわりが必要ですか。まこの場面をと決めないほうがいいですね。

そもそも、どんな活動でも取りかかりの早い子、遅い子、すぐに終わる子、なかなか終わらない子、やらない子、その時でなく別の時に思い出してやる子…いろいろな子がいるのがあたりまえなのです。

なかなかイメージがもてない子にはどうしたらいいかという答えの一番は、まず先生がそんな子もいてもいいと思えるようになることです。這い這いしている幼児にどうしたらすぐに立って歩くようになるのかを悩むことはないでしょう。歩き始めるのも、話し始めるのも、絵を描き始めるのも、歌を歌い始めるのもみんな子ども一人ひとりその時期もスピードも違うというあたりまえを忘れないことです。

その上で、絵本を何回も読み聞かせたり、絵本の世界をいっしょ再現したり、いろんな楽しいことを先生がやってください。先生の様子を遠くでなにげなく見て気にしていないようでも子どもはちゃんと自分に必要な情報は吸収しています。

Q84 四つ切りの画用紙にほんのちょっと…の子どももいれば、画用紙の白がまったく見えなくなるまでこっそり描く子どももいます。「できた!」と自らもってくるまで待っていますが、途中からテーマからずれて線あそびに夢中のようにです。どうしたらいいでしょう？

基本的には放っておいたらいいのです。お絵描きは遊びです。みんなで鬼ごっこはじめても、しばらくするとやめる子、ずっとやめない子、いっしょうけんめい鬼から逃げる子、適当におしゃべりしながら加わっている子いろいろいるのがあたり前です。鬼ごっこ、砂遊び、お絵描き、積み木遊び、みんな子どもにとっては等しく楽しい遊びです。お絵描きだけが特別ではありません。あたたかくいろいろな子を受け入れ見守っててください。

Q85 同じところばかりをぬり重ねる子をやめさせてもいいのか。(紙に穴があいてしまう)

紙に穴があいてしまったとき、その子どもが何に気づき、どう思い、どんなことを話し、どんな行動をとるのか、楽しみです。穴があいたことを残念に思うのか、穴があいたことで達成感を持つのか、どちらの気持ちでも、自分がやったことで自分の心が動くことを実感してほしいです。大きな穴のあいた画用紙を別の画用紙に貼ったら、穴のところに描きたいものが浮かんでくるかもしれません。きっと浮かんできますよ。穴があくだけでなくバラバラになったら、それも画用紙にはりましょう。宝島の地図ができるかもしれません。

Q86 特別支援の子へのかかわり

幼児期の子どもは、みんな特別でなければなりません。特別支援というレッテルを貼られた子にだけ特別なかかわりが必要なわけではありません。みんななどの子もれなく一人ひとりちがうかかわりが必要です。ちがうかかわりとして、遠くからの見守りが必要な子、細かな言葉がけが必要な子、近くでいっしょやるが必要な子、みんなちがう特別なかかわりです。いろんなかかわり方を先生が一人ひとりにしていくことで、子ども自身も、互いのかかわり方のちがいに気づくようになります。あの子は放っておいてもいい子、この子はいつもかかわっていなければならぬ子というような決めつけ、思い込みに陥らないように気をつけてください。子どもは時と場、まわりの人がかわるとちがう面を見せることがよくあります。

Q87 気持ちの持続のさせ方？ 絵の具が乾いてからしか、クレヨンで描けないという状態の時、乾くまで

気持ちが続かないときどうしたらいいか。

クレヨンで描くということが決まっていれば絵の具を使うときと、絵の具遊びをした跡を見ているうちに上からクレヨンで描きたくなくなったというのとのちがいです。前者はそんな決まり守れるとはかぎらない。後者はやりたくなくなった子だけがするものです。

先生の立ち位置は、子どもの先頭に立たないこと、私のあとをついてきなさいとって、みんながついてくるとは限りません。でも、子どもの後ろにもいかないこと、必ず追いかけるとはかぎりません。いつも子どもの横にいること。これが正解です。横からの提案は、おしつけにはなりません。気持ちの持続のさせ方、これは先生が横にいる時には起こらない疑問です。その子の気持ちに寄り添っていれば、先生からも子どもからも対等な提案があるはずで、「昨日絵の具で描いた絵の上から、今日はクレヨンで描きたしてみない!」と提案してください。どんな絵になるのか勝手な期待や予想はしないこと。すべてがその子の表現です。

Q88 描きたい思いはあっても、自分の中で上手いかなかったと感じ泣いてしまう子ども。どうしたいのかがうまく言葉で表せず、こちらが何を言ってもその子の思いをくみとれず、最終は「もうやめる…」と泣いて終わってしまう子へのかかわり。

そもそもお絵描きは、みんなが一斉にするものになってしまっていないですか。真面目で自分の思いをちゃんと描きたい子は自分のペースで自分のやり方で、そしてやり方をいつでも相談できる時間をつくってあげることが大切です。

1日一人15分、先生を独り占めにできる時間をつくっていっしょにお絵描きすることをお勧めします。担当の子が20人だとしたら、20日で全員の子と先生が二人っきりの時間をもつことができます。みんなに順番に先生とお絵描きの時間をもつことを約束して始めればよいと思います。みんなという場から離れる必要はありません。むしろ先生と一人ひとりがいっしょになってお絵描きしているところをみんなに見せてください。みんなもその日の友だちの絵を一人ずつ見ることとなります。一人ひとりが大切にされていることをみんなが実感できるひとときになるはずで。

Q89 “やりたくない”という子ども一人ひとりの作品づくりの声かけとそのタイミングは？

反対に終わらない子にはどのタイミングで、どんな声かけがいいか

絵を描いたり、ものをつくったりすることは、教えて身につけられるものではありません。その子の内から湧き出てくるものです。少しずつ湧き出てくる子もいれば、突然溢れるように湧き出てくる子もいます。

外にでる時は帽子をかぶる、食事の前は手を洗う、こんなことは「やりたくない」からそのままいいというわけにはいきません。どんなに帽子が好きでも部屋に入れば脱がせるし、どんな手洗いが好きでもずっと手を洗っていたらやめさせるはずで。

お絵描きやものづくりは、唯一やりたくなければやらなくてもいい活動です。やりたいときを大切に活動なのです。なぜならお絵描きやものづくりがやりたくない子はいないからです。でもやりたくない時とやりたい時は必ずあります。やりたい時をいかに見つけるか、それがタイミングです。終わらない子は時間の許す限りやらせてあげればよいです。ただやらなければならぬこと(例えばお昼のご飯を食べる)を

後回しにしてその子だけやらせる必要はありません。ご飯の時間、おそうじの時間、帰りの用意の時間、みんなですることはちゃんとやるようにしてください。

Q90 子どもの絵は、全部素敵!!

でも展覧会に出す絵を選ばなくてはならない。どうやって選んだら良いのでしょうか。

子どもの素敵は絵だけではありません。生活すべての場面でその子のもっとも輝いたことをみんなでたたえ合うことができれば良いと思います。展覧会はそのたたえ合う機会の一つにすぎません。たたえ合う機会は先生がつくったらいと思います。展覧会といっても二つのパターンがあります。先生が選んだ絵は必ず展示してもらえる展覧会と、コンクールのように出品するけれど必ず展示してもらえるとはかぎらないと展覧会です。必ず展示してもらえる展覧会には、これをきっかけにこの子の素敵さをこの子の保護者にわかってほしいと思うものを選びましょう。コンクールのような選出がある展覧会には、テーマや描き方を先生が指導したものではなく、その子一人ひとりの特徴がよく絵にあらわれている子の作品を出品してください。毎年の行事や季節のテーマ(いもほりや運動会など)は、どの園でもほとんど描いています。そして幼児の描くそういった絵は、みんなで素敵ですから、審査員も実は選びようがありません。

だから、みんながやったことではなく、その子だけのこだわりの絵に審査員は惹かれます。なぜなら、展覧会なのでいろいろな絵を選ばなければならないからです。だから、その子だけの世界がある絵をコンクールには選ぶといいと思います。

その他の出品しなかったり落選した絵には、先生がその絵にお返事をかいて、保護者会などに展示してください。その子がどんなふうになんかことをつぶやきながら描いたのかがわかるとその絵のよさが保護者にとどくと思います。「○○ちゃんはこのお芋のかたちを描くとき、とっても大きな声で”おいもさん大好き”と言ってました。」とか。

.....
こけたら泣く。痛かったから

しばらくすると泣き止む。痛くなくなったから

こけなかったら、泣く機会がない

痛さを知る機会もない

痛い思いをしても

必ずその痛さは消えることを知ることもない。

こけなかったら、泣き出すのも泣き止むのも

自分がそうしていることに、気づく機会はおとずれない

.....
えがきはじめと えがきおわりが つながると

せんが かたちになる

かたちと ところが つながると

せんが えになる
ことばに ならない ところが
たどたどしい かたちに たくされる
そのえに むけられた
あたたかな まなざしから
わたしは ひとりじゃないことと
わたしが たいせつな「存在」であることをしる

2016

Q91 技法も大切だが、「私は描ける」という最低の力を保障していきたい。

すべての子どもは描く力をもっています。というより子どもは大人が気づかないだけで必ずどこかで「描いて」います。窓ガラスに息をはいて指でらくがきしたり、地面に靴で線を描いたり、床の雑巾がけでわざわざ曲がりくねったり、日常のあらゆる場で子どもは「描いて」います。そんな子どもたちの「描く姿」をみつけていきましょう。「かくれんぼ」は必ずみつかるから楽しいのです。子どもがこっそりやっている造形活動を大人のあたたかな眼差しで「みつけた」とみつけていっしょにやりましょう。子どもと同じことをいっしょにやってみると子どもが何を楽しんでいるのか感じ取れるはずです。

Q92 5歳児で絵が乏しい。描き始めに時間がかかる。イメージを伝えられない(話せない)。人間が描けない(手足がなかなか出てこない)。途中まで色鮮やかなのに暗い色で上書きしてしまう。

乏しい。時間がかかる。伝えられない。……それらはすべて他の子どもに比べてですよね。成長が他の子より遅い子どもや、生きることへの障がいがとても大きい子どもがいることは事実です。そういう子どもたちも他の多くの子どもたちと同じように生き生きと成長して欲しいと願う気持ちはまちがっていません。でもどの子も「同じように」というのはどの子も「同じことができるように」ということではありません。一人ひとりのちがう成長に対して「同じように」かかわるということです。

絵が乏しい。時間がかかる。伝えられない。……だからこそ子どもは成長しています。大人が見落としている何か大切な面が成長している大事な時期であることはまちがいありません。子どもの成長は、アウトプットの前にはインプットです。表現より吸収です。何もしていない時、時間をいっぱいつかっている時、表れる表現が乏しい時、心が豊かに耕されている時です。

Q93 絵を描く時間にみんなで円になったほうがいいのか。イスに座るのでなく床でしたほうがいいのか。具体的なセッティング法を教えてください。3歳児です。

絵を描く時間、〇〇する時間が決まっている。座り方が決まっている。すべてのセッティングを先生が決めていく。子ども一人ひとりの思いを大切にしたい時間なら、そういうのをできるだけ取っ払ってみる必要があります。3歳は、ほとんどの子どもが自分だけの世界にいます。地球の人間社会に生きてまだ3年、自分でいろいろ気づける場の設定が大切です。それは3歳の体型、体力、身体機能にあった環境である

かどうかです。絵を描くためのセッティングの前に、3歳の子どもにとって安心して自由に過ごせる環境づくりは必要です。それができていればその中に必ず、絵を描くことや、ものを作ることを子どもみずからが始められる場と時間が生まれるはずで。

でも、とりあえずはどんな活動も基本は輪(円)になっては始めるのがいいと思います。

Q94 絵が大好きな子どもが丁寧に絵を描いていて、その子ども以外全員が描き終わり、戸外で遊ぶ時間になった。その子どもには満足するまで描いてほしいが、他の子どもたちは待つことが(室内で遊んで)できなくなってきた。担任は一人。そんな時、部屋から戸外も戸外から部屋も見える環境であればその子が納得いくまで活動を続けさせてもいいのか？

その通りです。その子がやりたければ続けてやらせてあげてください。ただそれが無理な状況なら、「ごめんね、続きは明日にしてくれる!」とお願いしたらいいと思います。普段のあそびはそうしているのではないのでしょうか。自由に子どもたちが遊んでいるとき、ずっと同じあそびに夢中になる子もいれば、途中でやめてべつのあそびをはじめの子もいます。何もしないでただらと過ごしている子もいると思います。

お絵描きだって子どもにとってはあそびです。やりたい子は続けたらいいし、飽きたらべつのことをやればいいのです。あそびの主体は子ども自身、一人ひとりの子どもが今どうすごすか、その決定権はいつも子どもにあることを忘れてはなりません。

Q95 絵を描くことにも自信がない子で、描き出すまでに時間がかかる子には、イメージがわきやすいように「どんな形だった?」「おともだちもいたかな」と声をかけると保育者を見ながら描き出す。しかし、こちらが誘導して描いた絵になってしまっていないのか、その子の表現という点で欠けているのではないかと感じる部分もあるが関わりはあっているのか。

何かをはじめるとき、初めから自信のある子なんていません。自信のあるように振る舞う子がいるだけです。一人で歩けるようになって、初めていくところだと誰かの手をつないでくるはずで。みんなが楽しいそうに描いている中で、自信なさそうにしている子がいたら、手をつないでいろんな子の描いているようすを見て回ったらいいと思います。今このときに描かせる必要はありません。描いているみんなと描かない子がふつうにいっしょに過ごせる場作りが大切です。今描かない子は、みんなの描くようすから描く楽しさをいっぱい吸収しているはずで。描かない時間、なにもしない時間こそ、その子の「やりたい貯金」がたまっている時なのです。

Q96 描いた絵を折りたがる子がたくさんいて作品として残すことが難しいことがあります。止めさせた方がいいのでしょうか。

折り目のついた絵は、作品じゃないとだれが決めたのでしょうか。子どもの素敵な活動を残したいのなら、その子の活動のすべてを残しておかなければなりません。「折りたがる」にはその子なりの理由があるはずで。子どもならではの「こだわり」を尊重することが、子どもの表現を大切にすることです。

Q97 画用紙の色、教材を選ぶ時のポイント・選ぶ基準は何ですか。

日常の保育の中での、画用紙や描く題材との出会いは、一人ひとりの子どもの生活と密着していなければなりません。絵は画用紙に描くもの、決まった教材や題材があるはず、という発想は今までの小学校の図工的で。今の小学校の指導要領では、6年まで造形あそびがとりいれられています。むしろ保育の原点に立ち返ることが求められています。同じ大きさの画用紙をみんなに同じように配って、先生が題材を決めて、説明を聞いてからはじめるというスタイルは保育現場の日常ではありません（非日常的にはありますが）。いろんな色の画用紙に出会う、いろんな描くきっかけに出会う、出会いをつくるのは先生ですが、出会ったあとそれを選ぶのは子ども自身です。

Q98 ゆびえのぐの代用品となると何ですか。絵を描く画用紙は「白」が良いと以前、お聞きしましたが、白だと寂しい印象になることも。白以外でどんな色が良いですか。

「ゆびえのぐ」という商品の代用品はありません。ただ筆やペンを使う前に手と指で描く活動はとても大切です。普通のえのぐでも指先にちよつとつけて指跡つけてみたり、コンテで色をつけたあとを指でこすったり、手でできることはたくさんあります。おもいきりぬたくりたいのなら、紙粘土に水をたしてどろどろにしてえのぐで色をつけて泥遊びのようにして遊ぶ。もっと簡単なのは土粘土をどろどろにしてえのぐのようにして遊ぶこともできます。

画用紙の白が寂しく感じるのは、子ども(幼児)の絵のゆたかさに向き合えていないのかもしれませんが。子どもの描きたいことと、大人の子どもの期待することには必ずずれがあります。どんな色の画用紙を選んでもそのずれを理解しないかぎりあなたは満足しないでしょう。

あなたが満足していなくても、描いている子どもが満足していればいいのです。その子どもが満足して笑顔で見せにきた絵に保育者がさびしいと感じるのは変なことです。ともに喜ぶためには子どもの描く姿そのものを受け止めること、子どものすることを丸ごと受け止めることはいつもの保育であなたが心がけていることです。描く活動と日常を切り離す必要はありません。

Q 99 飼育している虫や小動物を絵にする時は、直前に細かく「つのはこうで」「足はこうで」など確認させた方がいいのか。

虫や小動物を飼育するということは、その虫や小動物はいっしょに生活している友達であり仲間です。虫や小動物を仲間として対等に感じられる子どもの感性で自然に描いていけることが大切です。いきなり虫や小動物を描かされても子どもは、何をどう描けばいいのか困ってしまうでしょう。日常の生活を思い出してお話しながら絵にしていくのが自然です。虫や小動物にかかわりの深い子どもは自分と彼らとのかかわりをきつとゆたかに描くでしょう。でもどの子も同じように深いかかわりが持てるわけではありません。無理に描かせる必要はありません。先生からの提案に乗ってくる子もいれば、そうでない子もいるというのが健全な活動の場です。みんなそろって先生の提案通りにするというのはむしろ異常なことです。もちろん結果的にみんな同じテーマ、題材になったことはあります。けれども、はじめからおわりまで先生の決めた通りに進むというのはいえぬことです。

Q100 発達的にゆつくりめのタイプの子どものとそうでない子どもの活動の難しさ、差などあるので、どう指導

していくのか。

まず大前提として、一人として同じように発達する子どもはいないということを忘れてはなりません。身体の成長だけをとってみても、成長のしかたはちがいます。ゆっくり成長する子とそうでない子が、活動がちがうのはあたりまえです。指導でなく保育です。一人ひとりの成長の差を縮めるのが目的ではありません。その子なりの成長を見守り支えはぐくむのが保育です。

Q101 単級のもちあがりをする絵のテーマに悩む・・・

何を描くか、あなたが悩むとき、成長しているのはあなたです。子どもがなやむと子どもが成長します。いっしょになやむとあなたも子どもも成長できます。今まで取り組んできたことをふりかえりながら、まだ出会っていない材料、用具の提案はあなたの役割です。そして何を描くか、描きたいかは、みんなで話し合いきそうなこと、描けそうなることを出し合ひましょう。話し合ひはまとめる必要はありません。一人ひとりのいろいろな考えや感じ方を認め合う場です。一人ひとりの思いや考えに謙虚になりましょう。子どもの思いによりそうと必ず子ども自身が描きたいものがみつかるはずですよ。

Q102 特別支援の子どもについて

こちらのことばも伝わりにくく、本児もことばが出ない場合、その子どもがなにをイメージして、なにを描いているのか読み取ることが難しい。

(描いてほしい題材があっても画用紙をパスですべてをぬりつぶすことが多い。)

画用紙をパスでぬりつぶしているこの子の横で、同じようにあなたも画用紙をパスでぬりつぶしてください。この子がどんなふうで、どんな筆圧で、ぬりつぶしているのか、そっくりに真似てみましょう。あなたがこの子に伝えるのではなく、この子があなたに伝えていることを受け取ることが先です。思いはことば以外でも伝えています。

Q103 画用紙の色の種類を数枚選べるように出す時、絵の具で描く時とクレヨンで描く時の絵の見え方が違います。絵の具の場合は、前もって色を合わせておくことで合う色、合わない色を判断できるのですが、クレヨンだけで描く場合、画用紙の色が難しく描き終えた絵を見て「あっ この色、線が映えない」と思うことが多々あります。子どもからすると、そこまで思っていないと思うのですが何か基準となる見方があれば教えていただきたいです。

「あっ この色、線が映えない」という気づきを子どもがもてる機会をつくるのが先生のやくわりです。そしてその気づきは、いつくるかわかりません。本当の学びは、教えてもらって分かったことではありません。自ら気づいてわかったことです。あわてて教えると本当の学びをその子から奪うことになります。

そして、子どもは絵を描いている距離でみえています。先生はその絵を離れてみていませんか。描いている子どもの横よりそい子どもと同じ距離で絵をみたら、あながいマッチしていることが多いと思います。

Q104 一斉指導よりも、好きな遊びの時間に自由に表現できる環境を用意しておいて描いた絵の方が、その子らしさが出るのではないかという話が出ていた。しかし、例えばお話の絵は個別活動ですることは

できるのか、どうやってすればいいのか、教えてほしい。

保育のカリキュラムにお話の絵をみんな一斉に描かせるという内容はありません。お話の絵のコンクールや展覧会があるからみんな一斉に描いているだけです。保育の基本はあそびです。「今日は全員、一斉に鬼ごっこをやります。」とは言わないと思います。でも、鬼ごっこがみんなのあそびのブームになってみんなが鬼ごっこすることはあります。絵本を読んでもらっておもしろかったから、必ず絵にしなければならなかったらそれは、子どもにとっては苦痛でしかありません。でも、好きな絵本のことを思い出して絵にする子はいます。また、絵の具あそびをしていて、絵本のことを思い出して描き出す子はいます。その子の楽しそうな様子を見ていっしょに描く子が増えていくことはあるかもしれません。

お絵描きはあそびです。あそびの主体は子どもです。

展覧会の締め切りギリギリにいきなり先生が決めた絵本で、一斉に取り組むということがどうしても起こるかもしれません。そんな時でも、子どもたちが自分なりに自由に楽しく取り組めるのは、それまでの自由保育の中で思いっきり造形遊びをしているからです。

走れる力が育つのは、運動会で走っている時ではありません。運動会以外の普段のあそびで育ちます。

描く力が育つのは、展覧会に向けて描かされている時ではありません、それ以外のふだんのあそびで育ちます。

Q105 描いたものをまちがえてかきなおしたい時は、新しい紙でかいた方がいいですか。

全部まちがえたのなら新しい紙、一部をまちがえのなら上から小さな紙を貼る、またはまちがえたところだけ切り取って、新しい紙の上のまちがえていない部分を貼る。そんなことを自然にやればいいです。

でも、まちがえた絵とはなんでしょう。子ども自身が自分でえがきたいものを決めてまちがえたと思うのはいいですが、先生の出した課題をから好きなように描いているうちに外れてしまったことを、その子がまちがったと思っているのは、その子のまちがいでではなく先生のまちがいです。

Q106 パスでかいてて手が汚れて絵が汚れてしまうことが多いです。工夫などありますか。

バスよりクレヨンがよごれにくいですが、でも、バスのやわらかさを子ども自身が好むのであれば、そして絵が汚れることなど気にせず描くことに夢中になっているのであれば、その汚れは汚れではありません。その子どもの夢中の跡です。

Q107 画用紙の両面に描いた絵に対してどちらも大きくバツテンがしてあり、次に渡した画用紙もまたバツテンがしてある。この場合どんなアドバイスをしたら？

なぜバツテンをするのか、そっと遠慮げみに、けっして上から目線ではなく、謙虚にその子にたずねるしかないです。でも、いつも他のことで子どもにたずねたことがなく、このことだけをたずねたら、子どもはやっぱり非難されていると思うでしょう。普段から、「今の気持ちおしえて」とか「描いた絵のおはなし聞かせて」など、子どもに問いかけること大切にしてください。子どもにたずねることなく勝手に子どもの家庭環境

や表情からわかったつもりでいることはその子に失礼です。子どもたちが先生に頼ってくるように、先生も子どもに頼りにしましょう。

Q108 絵を描くときの言葉がけは不要かな・・・と思うことがあるが、最低限必要な言葉がけはあるのでしょうか。

まず先生自身が自分の心の動きに敏感になることです。子どもが自ら描いている時、絵だけでなくそのすべてが「すてき」な一瞬であるはずで、その「すてき」に先生は敏感でなければなりません。「すてき」を心が感じ取れば、声をかけたくなくなるはずで、そういう声かけでないと子どもの心にとどきません。

Q109 未満児を担任していて、水性ペンを使ってお絵描きをしています。絵を描いていく上でクレヨンからペンへの移行していく方がいいのか、ペンからクレヨンへいく方がいいのか悩んでいます。

描く道具に、順番はありません。ただ子どもの小さな手で持ちやすく描きやすいもの、そして安全なものであれば、自由に使わせてあげてください。未満児なら、絵本を読んであげて、気に入ったページの絵を見るだけでなく指でなぞる、指でいろんな形を確認するような活動もときどきやってください。「描く」前にすることは「見る」こと。「見る」ことは目だけがすることではありません。形をなぞることは指で「見る」活動です。散歩でタンポポが咲いているをみつけたら立ち止まって、タンポポさんにあいさつしましょう。そして、「見る」だけでなく、タンポポさんを撫ぜたり握手(つまんだり)しましょう。指で「見る」活動は、描く活動のはじまりです。

Q110 あまり経験がなくやり方が分からないのと、自信がないのとで、絵を描くことを拒否する 2 歳児の男の子がいます。いっしょにやろうと誘ってもいつも「いやや」と言ってやろうとしません。

他児がお絵描きしているのをじっと見ていることはあるので、そのうち興味がわくかなと思っているのですが・・・こちらからアクションを起こすべきでしょうか？

先生が何も指示しない時、子どもたちは自分たちで好きなことをしています。そんな時子どもたちのしていることをゆっくりみてみましょう。いつも何かをしているというわけではなく、楽しそうに遊んでいる友だちの輪には入らず何もしないでいる子もいると思います。みんなの輪に入れず困っていたら助けてあげなければならないかもしれませんが、遊びの内容によってみんなの輪に入ったり抜けたりしている子は、そっと見守ってあげているだけでいいと思います。

先生は、ちょっと頼り甲斐のある友だちです。先生のさそいに乗るときもあれば、乗らない時もある、そしていつでも、どこからでも入れる雰囲気はただよっている、それが大切です。

お絵描きだからといって特別に考える必要はありません。経験がなく自信がないことに億劫になるのは、子どもも大人もいっしょです。その子に経験にあう活動を用意してあげてください。それは描くことにこだわる必要はありません。まだ 2 歳です。他の子がお絵描きしているところをみているだけで、その子は自分に必要なことは吸収しています。

Q111 話し合いの中で、「絵には子どもの家庭背景なども表現されているのでは」という話ができました。私

の園の保護者支援の必要な子どもの絵はいつもボヤツとした感じであったり、色合いがブルー系が多いのです。描画活動への抵抗感や周りを意識して思っている絵が表現できないという中で途中で辞めたり、形としての表現が途中から線で塗りつぶされたりしています。このような子どもたちへの関わりを教えてください。

子どもの絵はその子のその時の心の状態があらわれているというのは本当だと思います。けれども「その時の」ということを忘れてはなりません。生まれて5年までの子どもはたいてい、他の家庭の様子は知りません。みんな自分の家がすべてです。その中で「うれしいこと」「かなしいこと」「たのしいこと」「つまらないこと」があるだけです。こういった心の状態以上にちゃんと見てあげなければならないのは、筆圧、線の長さ、線の種類、描いているものを何かに見立てられているか。など発達の段階のそった無理のない身体の成長ができているか、絵を描く姿から見守ってください。また食事や睡眠、適度な放任と見守りが家庭に保障されているか、そんな観点からも幼児期は見てあげることが大切です。その子なりに(みんなと同じじゃない)身体が育ってその子なりに(みんなと同じじゃない)心が育つのです。

そして、子どもは家庭環境の影響だけで大きくはなりません。あなたといっしょに過ごす園の時間もその子に影響を与えています。その子の成長を信じて小さな成長を見逃さないあなたの存在がこの子の救いになっているかもしれません。

Q112 絵を描くときの導入をどうしたらいいかわからない。運動会したから運動会の絵を描こうで良いのか。もっといろいろ工夫した方が良いのか。絵を描く度、毎回趣向を凝らした方が良いのか。

幼児の場合、特別な導入はいりません。でも、特別な導入(働きかけ)をしてはいけないというわけではありません。大事なのは、いつでも描けるそしていつでもやめられる環境になっていることです。クレヨンなどの安全で扱いやすい用具と気軽に使える紙が用意されていて、その扱いは子ども自身に委ねられていることが大切です。その上で、「先生といっしょにお絵描きしない!」とさそってみることはどんどんやってください。ボール遊びをしない子に外でみんなと遊べるように促すのと同じです。お絵描きもいろんな用具や題材との出会いは先生がつくってあげなければなりません。

「先生といっしょに線の散歩をしよう。」「先生と色水(絵の具)でジュースやさんしよう」「先生と不思議な海のいきもの描いて、水族館つくろう」……いくらでも子どもを誘ってください。

Q113 いろいろなクレヨン遊びを取り入れていく中で、次第に自信がもて筆圧が強くなってくる子どももいますが筆圧が弱いままの子どももいます。そのような子どもが少しでも強い筆圧になるにはどういう遊びを取り入れていくと効果的ですか。

筆圧の強い子もいれば弱い子もいます。楽しく描いていけば心配はいらないと思います。筆圧を強くするために描くのではなく、描いているうちに筆圧が強くなっていくのです。絵の具を使ってスタンプ遊びをしたり、指で描いてみたりして、筆圧の強い弱いに関係なく描く楽しみを広げていってあげてください。幼児はいつまでも幼児ではありません。身体の成長とともに筆圧は強くなります。ただ強く描きたいとその子が思うかどうかは一人一人ちがいます。

Q114 描画活動で絵の具を使う時、いつも 3,4 色しか出していないのですが、もっとたくさんの色を出した方がいいですか。1 回の活動で何色くらい出せばいいのかわからない。

絵の具遊びの色は多い方が楽しいです。でも、初めて絵の具遊びをするときは、色との出会いより絵の具という素材との出会いが大切です。赤ちゃんの離乳食は薄味です。「初めまして」の出会いは挨拶程度です。絵の具遊びも初めから何色も用意するのではなく、3、4 色で十分です。

色との出会いは、絵の具と出会わなくても日常生活の場にいっぱいあります。散歩に出て木々の葉っぱの色のうつりかわり、園庭に咲いている花の色、青空、曇り空、信号の色、・・・色との出会いはいくらでもあります。大事なことはそのことに気づかせてあげているかどうかです。

Q115 絵の完成(おしまい)をどこするのか。

遊びのおしまいはどこですか。遊びの完成はどこですか。お絵描きは遊びです。ノルマではありません。完成を目指して遊んでいるわけではありません。一瞬一瞬の楽しさを味わっているだけです。

そんな子どもの絵は、その子が感じている楽しさがあふれています。夢中になって描いていて、次の紙に移ったとき、また別の遊びに行ってしまったとき前の絵のおしまいです。

子どもの表現をまるごと受け止めましょう。

Q116 子どもたちが絵を描くまでにイメージしにくい子どもたちもいますが、そんな子どもたちに向けて事前に保育者が描いた絵を子どもたちに見せてもよいのか知りたいです。

事前に描いた絵より、その場で先生が楽しそうに描いているところを見せたほうが良いです。先生が美味しそうに食べているものは、食べたくなると思います。また、出来上がった料理を見せても、作り方はわかりません。描くものがイメージしにくいのではなく、描くことがイメージしにくいのです。

子どもは描くものをイメージしてから描くわけではありません。思わず線を描いてしまってからその線に思いを乗せていくのです。描く活動が先でイメージは後でついてくるものです。

園庭を走り回っている子は、どこかに向かって走っているわけではありません。走りたいから走っています。走ってから滑り台で遊んでいる友だちを見つけてそこへいくのです。

Q117 描き始めて、すぐグルグルや塗りつぶしてしまう子どもにはどのような声かけをしたら良いですか。

グルグルやぬりつぶし遊びをしたらどうでしょうか。クレヨンを使って透明のファイルやスクリーンに好きな絵を描いてその上にグルグルや塗りつぶしで描いた絵をかくしてみましょ。上からいろんで色をぬりつぶされても、裏返したら素敵な背景に初めに描いた絵があらわれているはずですよ。

それに、グルグルや、ぬりつぶしも絵のうちです。いろんなことをしているうちに子どもは自分でいろんなことをみつけていきます。ずっとグルグルとぬりつぶしを続けていることはまずないですよ。

先生が描かせたい絵のイメージを持ちすぎると、先生のイメージからはずれたことをやっていることに気づけた子は、きっとぬりつぶしてしまうでしょう。一人ひとり考えていることを感じることがちがいます。そのちがいを尊重してもらっていることが子どもにつたわれば、きっと自分が描いた絵をぬりつぶすことはしなくなると思います。

Q118 描くよりも遊ぶほうに気持ちがすぐいってしまう子どもには、どのような声かけをすればよいですか。

子どもは遊ぶものです。描くことも遊びのひとつにすぎません。描くことと遊ぶことを分ける必要はありません。クレヨン遊び、絵の具遊び、空き箱遊び、粘土遊び、…みんな遊びです。子どもが自ら遊んでいる中でやっていること、つぶやいていることのほとんどは造形活動と表現活動に関わっているものばかりです。

子どものしていること、つぶやいていることの延長に描く環境があれば子どもは必ず描きます。ただ大人の描いてほしいときとはかぎりません。

子どもの活動は不連続です。今やりかけたことをほっておいて別のことをしていても、また戻ってきて続きをやるということはよくあることです。もう忘れていたろうと思っていても急にやり始めることもあります。遊びとはそういうものです。そして幼児期はいっぱい遊びが必要です。

Q119 絵を描くとき、うすい色の画用紙を選びがちです。濃い色(青、オレンジ、ピンクなど)を上手に取り入れる方法や絵との合わせ方を教えてください。

先生自身が子どもにこんな絵を描かせたいというイメージが強すぎませんか。5歳ぐらいであれば透明のフィルムなどにクレヨンで自由に描いたものに、自分の好きな色の画用紙をバックにする活動をやって、子ども自身が色の組み合わせによってあられ方が変わることをみつけていけるといいですね。でも小さい子はそんなこと気にせずにとまたま選んだ色画用紙との出会いを楽しめばいいのではないのでしょうか。

Q120 描くことが苦手ではないがイメージが湧きにくい子どもに対する支援をどうしたらいいか。絵本や写真、他の友だちの絵を見ても悩む場合、待つしかできることはないのか。

「なやまない」「まよわない」ために絵本や写真、友だちの絵を見せるのではなく、「まよう」「なやむ」ために見せることが大切です。「まよう」「なやむ」って子どもの成長で大切なことです。子どもは「まよわない」「なやまない」活動よりも、「なやむ」「まよう」活動の方が成長が大きいのではないのでしょうか。活動に「なやむ」こと「まよう」ことを楽しめる余裕をもたせてあげればいいのではないのでしょうか。

Q121 描く気がなくなって雑に表現してしまっている子どもへの対応

描く気がなくなっているのに描かなければならない理由はありません。描く気にならないときは描かなかっただけです。ただ描きたくなる環境づくり、提案は必要です。でもそれを選択するのは子ども自身です。ボールがあるからボール遊びをしなければならぬわけではありません。砂場があるから砂場遊びをしなければならぬわけではありません。ボール遊びをしたい時、砂場で遊びたい時以外は、「いつでも来てね!」とボールも砂場も待機しています。お絵描きも同じです。特別なことはありません。

Q122 園の教育方針と、幼美で学んでくることがちがいで、園での指導の難しさを感じます。

滋賀幼美の会は、公立の幼稚園や保育園の先生たちがつくった会です。特別な考え方や指導法をお伝えしているわけではありません。保育指針と幼稚園要領に基づいた保育現場の造形活動をみんなでみつけていくことが目的です。私立の園では教育方針や保育内容にいろいろ特色があるかもしれませんが、この保育指針と幼稚園要領から逸脱したものであるはずはありません。一見矛盾を感じる教育方針もきちんと読み取ればそこに保育の本質が見つかるはずで、特に子どもの発達段階に見合った保育環境と保育活動は普遍的なものです。特に滋賀幼美の会は目の前の子どもに今何が必要か、今取り組んでいることは、子どもの健全な育ちをじゃましていないかということを見つけあう場です。人は人に育てられてはじめて人間になれます。その原点にもどると「ちがひ」はないはずで、

Q123 自信がなく何事にも消極的であり集団にも入れずにいる子がいます。絵を描くことも最初からしよとしなかったり(「いや!」「しない!」)、描き始めても「失敗した!」とすぐにぐちゃぐちゃにしたり、泣いて逃げてしまう子がいる。後で、後日にしようとしてもなかなかです。振り返ると 1 学期のその子の作品がありません。どのようにかかわればよいか?

「失敗してないよ。」「楽しく描けばいいんだよ。」と声をかけてはいるのですが。

「自信がない」「消極的」「失敗する」……そこから生まれる喜びが「自信がついた」「積極的になれた」「成功した」です。一斉にみんな一緒に取り組むことが苦手な子は、一人ずついいねいに関われればいいだけです。一週間のうち 20 分でいいからその子だけとお話ししながらお絵描き遊びをしましょう。もちろんその子のしていることをいっしょにしたい子が集まってくることはとてもいいことです。指の先に絵の具をつけて指のあとをつけたり、先生といっしょに線の散歩をしたり、その子のペースでその子ができることを増やしていきましょう。一学期の終わりにはきっとその子だけのすてきな活動のあとがたまっているはずで、

Q124 コンテをつかうタイミングは

「コンテであそぼう!」と声をかけて、先生が楽しんでいるのを見て、「ぼくもやりたい!」「わたしもやりたい!」と言ったときです。

Q125 描画展が毎年あります。それに向けて描くことと、絵の具あそびなどもっと過程を大切にしたいと思うことの矛盾を感じ困っています。

描画展に出す絵は日常の描く活動で生まれてくる絵ではだめだと思いませんか。

保育士や幼稚園の先生は、子どもの描いた一本の線にその子どもがどんな思いを乗せているか知っているはずで、一枚一枚思いのちがう大切な絵、子どもの時にしか描けない線、その絵をていねいに台紙にはり堂々と描画展にだしましょう。そしてその絵が展示された横にいて絵を見に来た人に「この絵すてきだおもいませんか!、この絵はね・・・」とこの絵のよさを話しましょう。

Q126 子どもが楽しめる(絵画が好きになる)技法について

子どもはみんな絵を描きます。描くことを楽しみます。棒切れを拾ったら地面に落書きします。お風呂の曇った鏡の前に立ったら指で落書きします。子どもはどんなところでも楽しみをみつけることができます。その延長にクレヨンや絵の具があります。そしていろいろな技法、用具があります。

楽しいからいろいろ挑戦したくなるだけです。楽しくさせる技法なんてありません。そして必要ありません。でも、大人が子どもといっしょにお絵描きを楽しむためには、いろんな手法が必要かもしれません。だから滋賀幼美の会では、毎年保育士や先生がた向けの実技研修をやっています。

Q127 気持ちのならない子への援助はどうするのか

24 時間ノリノリの子どもなんていません。のっている時とのとっていない時があるだけです。そして、表情が暗いからのっていないとはかぎりません。心の中の自分と対話している子どもは、静かで表情はないです。なにもしないで過ごす時間子どもにはとても大切です。

Q128 絵の中に説明的に文字描いている場合、どうしてあげたらいいですか。文字は描かないように伝えるべきかどうか。保育者としては、あまり文字を描いてほしくないのですが、その子の表現として受け入れ止めない方がいいのですか。(矢印を描いて説明書きをしてしまうのは伝えたい思いなのかな。)

文字を描くことと家や車や人を描くことにちがいはあるでしょうか。楽しく描いてし、いずれ(小学校に入ったとき)絵を描くより文字を描くことが学習では大切になります。文字に興味をもつことは自然な成長です。ただ、きっとこの子は絵にかいただけでは伝えきれない楽しいことをいっぱい伝えたいのだと思います。描いている子どもの横にそっと寄り添い「先生に絵のことお話してくれる？」と小さな声で問いかけてください。いろんなこときっと話してくれると思います。だからといって絵が文字が消えることはないと思いますが……

Q129 顔が描けない子に、どのように指導すればよいか、いつも悩みます。鏡を見せたり、見本を見せたり…。特に言葉の意味理解が乏しい子に伝えるには…。といつも考えます。

顔が描けないことに問題はありません。ただなぐりがきの終わり頃、線の描き始めと描き終わりがつながり○になることがあります。それを形として認識できた子は、その○を「自分」「家族」「友だち」に見立てます。そして○を二つ並ぶと、二つの○がお話を始めます。なぐりがきが絵になった瞬間です。

顔が描けなくても、5 歳までに○が描ける、□が描ける、△が描ければ OK です。あとはその形をいろんなものに見立てられれば OK です。

Q130 初めての技法で絵を描く時、手本として保育者が方法を示すと、その絵に影響されてしまう子どもがいます。自由な発想のためには手本はどうすべきですか？

「おはよう」の挨拶も、お掃除も、給食の準備もみんなお手本があって身につけていくのではありませんか。そして、お手本を示した人の影響を強くうけます。人が人を育てるとするのはそういうことではありません

んか。絵だけが特別ではありません。先生のお手本に影響されたということは、その子にとってそれがとても魅力的だったということです。先生のまねをしたいと思うのも子どもが自由な発想をしているからです。子どもはいろんな人の影響を受けて自分らしさをデザインしていきます。これからはじまる自分の人生、どんな人になってどんなふう生きていくかを無意識ではあるけれど探っている大切な時期です。

恐れず手本を示してください。ただしそのお手本のおしつけはだめです。「先生はこんなふうにしたよ、みてくれる!」ぐらいでいいと思います。

Q131 日常の保育の中で、保育室に自由に使える素材や教材を置いておきたいが、環境設定の仕方や丁寧に使える方法など、どうすればよいか。どのような素材が扱いやすいか。

お箸を使ってご飯を食べるのを教えるのは、まずは大人がお箸を使ってご飯を食べているのを見ることです。でも対面で見せているだけではまねっこが難しいです。未満児の子どもを膝に座らせ、先生と同じ目線でお箸でご飯を口に運んでください。大人と同じ目線でお箸の動きを見つめることができます。この経験の積み重ねはとても大切です。

描画や造形活動も同じです。先生のお話を子どもが先生の顔を見て聞く、先生は子どもの顔を見て話す。

互いに別のものを見て同じことを考えるのは、幼い子どもにとっては難しいことです。先生が一人ひとり順番に子どもを膝に座らせ、箱からクレヨンを出して、同じ画用紙にいっしょにお絵描きをしてください。子どもの息遣いや体温を先生も感じながらお絵描き楽しんでください。そして、丁寧にクレヨンを元の箱にかたづけましょう。一本一本色の名前をいいながら、クレヨンに話しかけながらしまっていきましょう。

同じ時間に全員は無理ですが、毎日一人ならできないことはないと思います。ハサミの使い方も、折り紙もこんなふうになれば、子どもはゆったりと豊かに扱いかたを身につけていくのではないのでしょうか。

Q132 終わりになかなかならない子、どのタイミングでどんな声かけをしたらいいですか。

すぐに「できた」と言って来る子、なかなか終わらない子、いろんな子が同じ空間を共有しているってとても素敵です。基本的のその子が終わるまでやらせてあげたらいいと思います。みんなが次の活動にはいったのを見て、そちらの方が自分が続けていることより魅力があれば自分で終わりにすると思います。その時「すごいね、ずっとやってたの」と認めてあげればいいだけです。

でもどうしても、やめてもらわなければならない時、「ごめんね、続きは明日にしてくれる!」とその子にお願いするしかないと思います。

Q133 子どもの絵は全部素敵!! でも展覧会に出す絵を選ばなくてはならない。どうやって選んだらよいでしょうか。

展覧会に出す絵や、園に掲示する絵を決めるのは子ども自身であってほしいものです。先生が出品したいと思ったら、必ずその子に「先生、この絵大好きだから展覧会に出していい?」とお願いしてください。小さい子はそんなこと判断できないから確認する必要はないと思われるかもしれませんが、自分の絵を大切にされていることは通じるはず。「おはよう!」と子どもの顔を見たら声をかけるのと同じです。「この

絵展示させてね」「どの絵にするか選んでね」といつも声をかけてください。

Q134 えのぐあそびの時、片付け(筆やパレット洗いなど)をどこまで子どもといっしょにするのがよいのか。

準備から後始末まで、自分でできるようになることを目指すことと、準備から後始末まで全部やらせることはちがいます。先生が準備して後始末している様子を子どもたちにみせましょう。そうすると手伝ってくれる子どもがいるはずですが、手伝ってくれている子どもをみている子どもは、何もかわっていないようで、準備と後始末を身につけています。

Q135 余白がある子に「もうちょっと何か描いてみる？」と言葉をかけると「もうこれでいい」という子や「何か付け足して描く子もいる。それぞれの「描く」思いを大切にしたいので絶対に余白をうめなければいけないわけではないですが、そのようなことは言わないほうがいいのか。言われたから付け足したということになってしまっているのか…？」

余白というのは、まだ描けるのに空いているところという意味でしょうか。画用紙の上に小さな白い雲と小さなお日様そして下の方にブランコしている友だちと自分を小さく描いて、画用紙の真ん中には何も描かない絵の、真ん中の真っ白は余白ではありません。高く広い空の上に雲が浮かんでいる、それをブランコしながらみている雲とブランコの間には何にもない広い広い空間(世界)がしっかりと描かれています。

でも、お日様の下でブランコしていたら急に雨が降ってきたことが描きたかったら、その真ん中の何もないうちに雨の点々を隙間なくいっぱい描いてしまうかもしれません。

迷路を描いたり、好きな物をとりあえず描いている子は、描いていること自体が目的です。隙間があればどんどん描いて余白がなくなるかもしれません。そういう絵は画用紙の上下はありません。

でも基底線(画用紙の下に線を描く)が出てくると、画用紙を自分のいる世界に見立てて描いています。上にはお日様、下には自分が立っている地面(基底線)、そして真ん中には広い何もない空間、その画用紙は友だちの笑い声や先生が笑ってこちらをみているいつもの安心できる園庭です。広い広い何でもできる気持ちのいい自分の世界(何にもない空間)はとても大切です。だから「もうちょっと何か描いてみる？」という声かけは、その子が求めていれればいいけれど、基本的には必要ないと思います。描く自由と描かない自由の両方を認めてあげてください。

.....

子どもは、絶え間なく成長している。

描いているときも、描いていないときも。

話しているときも、だまっているときも。

大人を喜ばす「すごい」ことをしたときも。

いつもの「あたりまえ」のことをしたときも。

大人を困らす「まちがい」をしたときも。

子どもは、絶え間なく成長している。
その成長は、大人の眼差しの外で起きていることがほとんど。
出会えた成長だけが子どもの成長ではない。
どの子のいつでもが「すごい」こと忘れないで。

.....

子どもの絵は、子どものわがままのかたまり。
でも「わがまま」がストレートにあらわれていることはすくない。
どんな絵も子どもの感動がつまっている
そして、同時に子どもの悲鳴もつまっている。
その両方をうけとめなければならない。

.....

生まれたばかりの赤ちゃんの持っている能力
人をひきつけ、人をつなぎ、人を信じる圧倒的な力
自分をとりまく環境への飽くなき好奇心と観察力
ストレートな主張
それが人間の赤ちゃんのすごさ
そして、このすごい力は、だれもがずっと持っている、ただ使うことを忘れてるだけ
それは、大人を喜ばす「すごい」ことでなく、まわりの大人が、目に止めない「あたりまえ」
この「あたりまえ」の継続があつてはじめて、本当の「すごい」がうまれる
だから本当に守らなければならないのは
描かせたものより描かせなかったもの
作らせたものより作らせなかったもの
覚えさせたものより覚えさせなかったもの
考えさせたものより考えさせなかったもの
感じさせたものより感じさせなかったもの
選ばせたものより選ばせなかったもの
大人が求めたものより大人がもとめなかったものなのかもしれない

2017

Q136 絵の具を使っていろいろ描く活動をしたいが、どのように用意したらうまくいくのか。色がまざってしまったらどうしよう。

絵の具は複数の色があつたら、必ずまざってしまうものです。絵の具遊びは、色がまざっていく過程でいろんな色が生まれてくるのをみつけていく楽しい活動です。

「色がまざったらどうしよう」と思う指導者の思いは、はじめて絵の具を使う子どもの思いと大きくずれているのではないのでしょうか。まざっていくのを見て先生が困った顔をすると、それは悪いことだと子どもも

思ってしまう。

子ども(特に幼児)にとって「描く活動」は、線描です。色ではありません。絵の具遊びは「色と遊ぶ活動」です。もちろんその活動の中に「描く活動」も含まれますが、描くだけでなくいろいろな遊びに広げていけるのが絵の具遊びの魅力です。

砂遊びをしていて、砂のお団子が乾いたら崩れるのはあたりまえ、絵の具の色がまざるのもあたりまえです。このあたりまえの体験から、工夫や持続する力が養われるのです。

Q137 絵をかく時の導入が、その時を思い出させるような声かけをしてから、「さあかきましょう」としているが、それでいいのか。

子どもは、思い出にひたるより、これからやることに思いをよせる方を楽しみます。

やったことを思い出させる声かけは、これから始める「描く」活動への導入にはなりにくいかもしれません。

前のことを思い出させて、その次に「さあ、えがきましょう」という順番は絵をかく導入としては幼児には不適切なように思います。

いろんな大きさの画用紙が、机の上に置いてある、その横にいろんな濃さのちがう青の絵の具が用意されている。指導者が、青い絵の具を画用紙に指でぬりたくっている。

子どもたちが指導者のしていることを見にくる、「みんなもやってみる？」と近くの子につぶやく、何人かがやりはじめる。そしたら指導者は自分の活動をやめて、やっている子に、みんなに聞こえるように声をかけていく。「部屋の中が青い空でいっぱいになってきたね。」など。まだとりくんでいない子に、「もっと青い空を増やしたいので、いっしょにやらない。」とうながす。そうして、みんなの画用紙が青くなったところで、「まるでこの前の運動会の青い空みたいだね。青い空の下でやりたいこと描いてみない？」と……

こんな感じで、描く活動がはじまるのでは(そうなるとはかぎりませんが)……

思い出して描くのではなく、描いているうちに思い出す、そして活動が広がる、それが子どもの活動です。

まずは子どもたち自身の「やりたくなる」環境づくりから始めましょう。

無限の始め方、無限の設定のバリエーションがあります。むしろ先生が思ったようにならないとき子どもたちはその無限のバリエーションをみつけ楽しんでいるすばらしい活動なのかもしれないのです。

「なぐりがき」って言われるけど、怒ってないよ。楽しいんだよ。

「さんぼがき」「うたいがき」「おどりがき」

……って感じかな

Q138 子ども全員で絵をかく時、保育者は前で絵を描いてみせてよいか。

結論を言えばどちらでもいいです。全員でなにかに取り組むときに、全員に向かって保育者はこれから

やることを説明したり、やってみせたりすることはよくあると思います。

それがいいか悪いかということではなく、それだけで保育者の伝えたいことが一人ひとりの子どもに伝わっているかと言えば、それはまずありえないのが当たり前です。

だから、子どもたちの前で保育者が描いてみせたとき、それをとりいれるかどうかは子ども自身が決めているはず。だから、どちらでもいいのです。

子ども全員に話しかける、やってみせることより、一人ひとりに話しかける、やってみせる時間を大切にする、そうすると子どもがそれを必要としているのかどうかすぐわかります。保育者から子どもへの一方通行でなく、子どもから保育者へのメッセージ(行動、つぶやき、表情)を受け取ることを最優先にしてください。

Q139 自由に描いてほしい気持ちはあっても展覧会に出すのが中心の絵になってしまう。よいですか。(9月10月は特に)

自由に描く絵と展覧会に出す絵とは何がちがうのでしょうか。子どもの描く絵はいつも子ども自身が自由に描く絵でなければなりません。先生から子どもへのさまざまな働きかけが、子どもの自由を奪うものであってはなりません。

もともと画用紙という限られた広さの上に描くこと、細い線は描けないクレヨンで描くこと、時間がきたらやめなければならないこと・・・子どもの生活はさまざまな制約(不自由)に満ち溢れています。その中で子どもが自分の自由を見つけ出ししていくためには、先生の働きかけはとても重要です。

子どもがさまざまな不自由をのりこえ自由をみつけ、自由のなかで描いた絵こそ、もっとも展覧会にふさわしい絵なのです。

Q140 絵を描くのが楽しくなってしまう画用紙いっぱい描くのはよいことだと思うのですが、これ以上描くと汚くなるのでは・・・と思うぐらい描いている子には、とめたほうがいいのか。どうしたらいいのでしょうか。

子どもにとって一番必要なことは、「出し切る」ことだと思います。その上で自分に「丁度いい」がみつけれられるのではないのでしょうか。「言い切る」「走り切る」「大声を出し切る」・・・いろんなことを「やり切る」体験の結果を「汚い」ととらえるのは子どもに失礼ではないのでしょうか。そのなかに「美しさ」を見いだす感性は先生自身は既に持っているはず。他の子と比べることをやめれば、一人ひとりの子どものみんなちがう「輝き」が見えてきます。

.....
幼児にとって

絵を描くことは日常だ

わたしにとって

絵を描くことが

日常からはなれてしまったのは

いつからかな
.....

Q141 筆圧が弱い子はどうすれば強く描けるのか。

這い這いしている子はどうすれば歩くようになるのか。その答えといっしょです。やがてその時がきたら歩くようになるのと同じです。描いていればやがて自然に筆圧は強くなります。子どもはゆっくり育ちます。ただ、みんなより筆圧が弱いことを子ども自身が気にし苦手意識をもつようになって、描くことから遠ざかると筆圧は弱いままです。楽しく描いてさえいれば、描き続けてさえいれば、筆圧の強弱の調整はいつの間にも身についているでしょう。

Q142 描くのが嫌いではないが、雑ですぐに描きあげる。間違ったといってすぐに×をする。

こういう子に一番必要なのは、いっしょに描いている他の子の存在です。丁寧に根気よく描く子、雑でも気にしないで楽しく描いている子、間違っても気にせずどんどん描く子・・・ 描いた絵に×なんかしないでいいことを、その子が気づける時がかならずやってきます。×はその子の今の絵、いつまでもつづられるはずはありません。

Q143 5歳児、なぐりがきを楽しむ子にはどのように声かけをすれば形になっていくのか。

そもそも「なぐりがき」という言い方、子どもに失礼だなと思いませんか。子どもは紙とケンカしているわけでも、紙をいじめているわけでもありません。ほとんどの場合自由に手を動かしてクレヨンや絵筆が紙をすべっていく感触を楽しんでいます。やわらかな表情で心地よい時間を過ごしています。もちろん「怒り」や「悲しさ」を紙にぶつけてくることもあると思います。子どもたちのいろんな思いを白い紙は全部受け止めてくれます。子どもは白い紙に自分の気持ちを打ち明けてスッキリしたら、次の一步を踏み出します。

白い紙の上を「お散歩」したり「かけっこ」したりして自分の心の中を整えているのではないのでしょうか。

「お散歩」や「かけっこ」は、どこかに行くのが目的ではありません。その活動そのものが楽しいひとときです。いくつになってもこんな楽しいひとときを大切にしたいですね。

形になんかしなくても楽しめる子どもがすてきだと思いませんか。形を描くことを急がせる理由はどこにもありません。

手紙をかくように 絵を描く

絵の具のような顔料は、いつまでも色褪せない

インクのような染料は、時とともに色褪せる

ずっと残すことがそんなに大切なのだろうか。

大切な誰かに思いを伝える手紙のように

時とともに色褪せる、変化していく

変わることを止めるのではなく

変わることを受け入れ楽しむ

大勢の人に見せるために

描くのではなく

必要とする一人のために

絵を描きたい時がある。

描く

手紙のような絵をかきたいときがある。

.....

Q144 5歳児で、どう絵を描いていいかわからず、友だちの絵を見てまねたり、どう描き進めていけばいいのイメージが持てずに困っていたりする子。教師が「こっちが頭で、こっちは体にしたら」など伝えたが、指導はこれでよかったのか。

絵を描くことと、字を書くことのちがいは何だと思えますか。絵はどう描こうが自由ですが、字は決まった形を決まった順に書かなければなりません。自由ではありません。自由というのは言いかえると「自分で決める」ということです。大人の言うことを聞いて行動できる「(大人にとって都合の)良い子」は、自分で決めることに不安を感じます。その不安を乗り越えていくのは子ども自身です。まわりの大人ができることは温かな眼差しでよりそうことだけです。教師の細かな指示は絵の活動においては、子どもの主導権を奪ってしまうだけです。描く自由のなかには、悩む自由、描かない自由も含まれています。

子ども自身が、「先生かいて」と頼ってくることもあります。その時「これは、あなたの絵だから」と断っていませんか。主導権は完全に子どもです。先生がその子の手になり言われるとおりに描いてみたらどうでしょうか。先生が楽しそうに描く、用具の使い方を実演していく、その子に一つひとつ確認しながら進めていってください。

ずっと先(来年かも)でかならず、自ら楽しそうに描いていることでしょう。

Q145 絵を描く時、何色くらい出すべきなのか。

子どもにとって絵を描く活動は、生活そのものです。食事は毎日とらないと生きていけないように、描く活動も毎日必要です。ただ食事でも毎日がホテルのディナーのフルコースである必要はありません。描く活動も同じです。その日にとりあえず用意できるもので間に合わせる事が大切です。食事と描く活動のちがいは、食事は友だちが食べているのをみているだけでは満足できませんが、絵を描く活動は、友だちの活動を見ているだけでも満足できます。絵を描く活動は見る事、想像することも含まれています。絵の具やクレヨンを見たり、触ったりしているだけで想像が膨らむことも実際に描きながら想像を膨らませることもあります。一色でも、何色でもいろいろあっていいと思います。偏食に気をつけるように偏色にならないように、いろいろな色に出会わせてください。

Q146 せっかく描いた絵の上からぬりつぶしたりなぐり描きをしたりする子がいます。途中でとめるべきですか。なぐり描きの感触を味わいたいのなら、別の紙を渡した方がいいですか。

活動の順番がまちがっていませんか。なぐり描きがはじめの活動、そのうちに絵になっていくのです。なぐり描きは1歳2歳の時期、3歳4歳になったらもう描かないというわけではありません。1歳2歳の時期はなぐり描きしかできない時期です。3歳ぐらいになるとなぐり描き以外にいろいろ描き方ができるように

なっていますが、なぐり描きがなくなるわけではありません。いくつになってもなぐり描きを大切にしてください。4歳5歳になるとなぐり描きだけでなく形や言葉がつながって、絵の世界がぐんと広がっていきます。それでもなぐり描きは大切な活動です。十分に満足したら自然に別の活動をしていくはずですが、大人の都合や、みんなに合わせるためになぐり描きを我慢させてはいけません。

Q147 段階的な導入は、やっぱり手でふれるところからですか。それとも筆やローラーですか。

そっと触れる、そこからすべての学びがはじまります。筆やローラーはその手の延長上にあるものです。筆がやさしく紙に触れる感触をイメージできるためには手でやさしくふれた経験がないと不可能です。

Q148 見たもの、経験したことを絵に表す時に、見ていないものや、あまり関係のないハートやリボン等を描きこんだ場合にはどうすればいいか。また、楽しんではいるが描きこみすぎている時にどう見守ればいいのか。

保育の時間に見たもの、経験したものを絵に表すという時間はありません。2歳の終わりごろから見たもの、経験したことを絵に描いて伝えようとしていく行為は自然なことですが、それをやらせるというのは不自然です。子どもは自分の興味、関心にそって描くものを決めています。いろんなことを描いてみて自分の表したいこと、伝えたいことを見つけています。子ども自身が困っていなければ、見守っていればいいです。ハートやリボンが描けるようになった、ぬり込めるようになった、どちらも成長している証です。

Q149 いろいろな色を経験してほしい時に同じ色だけ使う子に対するよりよい支援について

(認めつつ、他の色も使う楽しさを感じてほしい)

みんなでいっしょに色遊びをすれば、一人が同じ色しか使わなくても、友だちの使っているいろんな色に出会うことができます。いろんな色を楽しむいろんな子の姿とともに一人ひとりの子どもは自分の活動以外にもいろんなことを学んでいっています。

Q150 「火事だー」「火事でみんな死んだー」と、どの絵を描いても、最後にはそのようにいう。赤を使うことが多い。

どの絵を描いても最後に火事にしてしまうのは、自分の描いた絵に自信がもてないからではないでしょうか。本当に火事の絵が描きたいのなら初めから描いていると思うのですが。色遊び、スタンプ遊び、線遊びなど、ゴール(完成)のない活動(あそび)を大切にしてください。子どもにとって楽しい遊びのはずのお絵描きが作品をしあげなければならない苦痛な活動になっていないか、いつもの絵を描く活動を見直してみる必要があります。

Q151 生活面においても完璧でない気がすまない。絵も完璧に描かないといけないと思い、安心して描けないでいる。

完璧を目指すというのはじめからすることが決まっていて、その通りにならないと気がすまないということです。することが決まっていない活動、しあげない活動、みんなが違うことをしてもいい活動をどんどん取

り入れてください。つまり遊びです。白い紙の上はなんの制約もありません。思いのままに手を動かし、色と形、線のつながりやかさなりを楽しめばいいことを指導者みずからが率先して示してください。すぐにはそうできなくてもそういう楽しみ方があることを心のためているはずです。

Q152 保護者に言われたことだけしか描けなくて、他のことは描いたりしようとしないう子への声かけはどうしたらいいですか。また、楽しく描けるようにするにはどうしたらいいですか。

保護者が介入しようのない活動にすればいいだけです。好きな色のクレヨンで画用紙を塗りつぶすとかどうでしょうか。赤色が好きなら画用紙を赤で塗りつぶす、最後は真っ赤な画用紙になるだけです。塗りつぶす過程で好きなことができます。一人で描くのではなく友だちといっしょに一枚の紙で遊ぶ。どんどん描く子といっしょになったらじっとしている間に自分が描けなくなります。そんな経験をすると「描きたい」気持ちが育っていくのではないのでしょうか。

ただどんな子も大人の気付かないところで必ずお絵描きしています。そんな場面をそっとみつけて見守ってください。

Q153 のびのびと絵を描くことができない。絵がかたくなってしまう。その時の教師の声かけを教えてください。

のびのび描く子は描くことに慣れている子です。それだけです。かたくなっても、たどたどしかっても、描く経験の積み重ねがのびのびにつながります。描いていれば OK、描かなくても描いている子といっしょにいれば OK です。

Q154 特別支援の子に対して、どこまで支援してあげたらよいか。

特別な子とそうでない子がいるわけではありません。一人ひとりみんなその子なりの特別な支援が必要です。その一人ひとりちがう子がいっしょに居心地がいいように支援していけばいいと思います。初めから特別支援の子ができない活動を設定しておいてどう支援しようか困っていませんか。どの子もその子なりの活動ができることが前提です。みんなに同じゴールを求めるのは不可能です。大切なのはスタートの支援です。それは一人ひとりが取り組みたくなる場づくりではないのでしょうか。あとは子ども同士が互いに学びあう、助け合うはずで。先生がじゃまをしなれば・・・

Q155 特別支援児に対して絵をかく活動をするとき、一つ一つ「こうしましょう」という指示がないとかけない子は、「させた絵」のようになってしまい、楽しく描けていないのではないかと思います。でも「自由に」はイメージができません。どうするといいいでしょうか。

その子を信じてまかしてみてもいいでしょうか。絵を描く活動をみんないっしょにするというのでなく、みんなが好きなことをしている中に絵を描きたい子が絵を描くコーナーをつくっておくようにすればいいと思います。作品をつくるのではなく絵の具あそび、スタンプあそび、線あそびなど、絵をえがかなくても絵を描く材料や用具であそべるような場が大切です。

.....
幼児は世界を読んでいる みえる きこえる ふれる・・・
かんじる世界のかくれた意味を読んでいる

.....
Q156 子どもの思いと先生の思いのちがいを、玉ねぎをしっかりと書いてほしいと思うが画用紙全体に色を塗ってしまう。

子どもが絵を描くときに一番じゃまなものが、先生の「しっかりと書いてほしい」という思いです。先生が玉ねぎをしっかりと書いているところを子どもにみせて、できた玉ねぎの絵でお話しをつくって聞かせてあげてください。そこから何を始めるかは子どもにゆだねましょう。

Q157 黒か紫ばかりつかう子。こだわりの強い子。家庭環境がすこし気になる子どもへのアプローチはどうすればいいか。

子どもは一人ひとりみんな何かにこだわっています。家庭環境もみんな違います。先生の気になるその子だけでなく、他のすべての子が何かこだわりがあり、気にしてあげなくてはならないことがあります。もう先生に気にしてもらっているその子はしあわせです。今黒とむらさきが好きな子がこれからもずっと好きでい続けることはたぶんないです。見守り寄り添ってあげていることが最大の支援です。

Q158 お話を絵にするコンクールに向けてどのように絵本を提示して、どのように声かけしていけば子どもたちの「描いてみたい!」という思いが引き出せるのでしょうか。これは描きづらいんじゃないかと思うことがあり、無理に描かせるのもなあと悩んでいます。

お話を絵にするコンクールは、そのコンクールの趣旨に合う子どもの絵があれば参加したらいいだけです。そもそも全員に描かせるなんて無謀なことです。全員に絵本を読んであげて、その絵本を見ながらいろんなお話をふくらませていくのはとてもいいことですが、そのふくらんだ思いが絵になるかどうかなんて子どもしだいです。

自由なお絵描きあそびの時間に、絵本のことを思い出して描く子の絵を出品すればいいだけです。

Q159 2年保育4歳児の担任です。全体的に絵が幼いのですが、数名頭足人の子がいます。「こうやってかくんだよ」と伝えるべきですか。描ける子どもをみて学んでいくまで待つべきですか。教えてください。

頭足人を描く子は人がそう見えているわけではありません。お腹を見せてとって頭は出さないと 생각합니다。楽しく描く体験がつづいていけば大丈夫です。いろんな子のいろんな絵を認め合って、その絵のお話を聞きあう活動を大切にしてください。描き方が幼くても、描いた絵に対する思いの言葉は確実に成長しています。

.....

何もしない時間

じっとしている時間

この時間は

何かをはじめる前に必要な時間

.....

Q160 幼い絵を描く子どもにどのような声かけをしたらよいのですか。(どのような経験をさせてあげるべきか)

基本的に子どもは、自分に必要な活動は自分で自然にやっています。自分に必要な知識も自然に身につけていきます。やりたいことができる環境と必要な知識を吸収できる環境がそろっていれば子どもの成長を信じて見守るだけです。いつでも描けること、みんなが描いている場にいること、・・・いろいろな子どもと大人(指導者)がいっしょにいる場であれば子どもは自分で必要な活動をみつけていきます。

Q161 4歳児です。2日間に分けて活動すると1日目のイメージが持ち続けられなくて、全然ちがうものを描き出したりします。どうすればイメージを持って描いてくれますか。

その絵はだれのものでしょうか。指導者のものではないです。子どものもので。イメージを持ち続けるかやめるかは、子どもが決めること。そこに指導者が介入することはできません。毎日子どもは生まれ変わって園にやってきます。過去をひきずる大人にそんなはやくなる必要がどこにあるのでしょうか。1日1日その時で完結、子ども自身が思い出してつづきをやりたいと言った時だけ続けたらいいです。続かなくても何の問題もありません。それを困ったと思うのは、指導者が勝手に絵の出来上がりを決めていているからです。それは子どもに自分の描きたい絵を描いてもらっているだけです。

Q162 秋にある展覧会で絵につける名前(題)では、センスがないのでなかなか難しい。苦手意識があります。

子どもの絵の名付け親に指導者になる必要はありません。子どもに聞きましょう。「この絵なんていう名前にする? この絵のこといろいろお話させて?」それで、その子がつぶやいた一言を題名にしたらいいと思います。

Q163 クラスの中に手やつめが汚れることをいやがり、絵を描くことに集中できなかつたり、やめてしまう子が多くてどう指導していけばいいか悩んでいます。

素手でさわることの大切さを、保護者にきちんとつたえることから始めてください。服も手も体も汚れが見えなくても いろんなところに行きいろんなことをしているわけですから汚れています。だから食事の前には必ず手洗います。汚れていないから洗わないなんてことはないはず。見えている汚れだけが

汚れてないことを子どもたちに少しずつ教えていくためにも、まずは目に見えて汚れてもらう、そしてしっかり洗う体験が必要だということ保護者に伝えてください。クラスにどうしても嫌がる子がいたらみんなで石鹸の泡あそびをしたらいいと思います。泡で山をつくったり、体につけあったりして素手でさわるとの楽しさを体験させてあげてください。

それでも、嫌がる子に無理強いする必要はありません。やりたい子が楽しめばいいと思います。それを横でみている子には、すぐにはやらないかもしれませんが「やりたい貯金」がどんどん貯まっていきます。そして、それは半年先、1年先にはたぶん、進んで汚れなんか気にせず取り組んでいるはずで、そんな場面を何回も知っています。

Q164 描いたトマト全部に顔を描いてほしい。背景全部に色をつけてほしい。途中でやめてしまう子どもにはどうかかわればいいですか。

そうしてほしいとあなたが思う理由はなんですか。途中でやめたとあなたが思う理由はなんですか。その絵どうするかではありません。自分のクラスの子の絵と隣のクラスの子の絵を見比べてはぶかしくないように、自分の指導力がみえるようにしたいと思いませんか。もっともつとつとすることを増やしていくのが指導ではありません。その子の「ちょうどいい」をみつけていくのが指導です。生垣の剪定のようにきれいに揃えるのが指導力ではありません。一人一人顔つきも性格もちがうみんなの絵は、みんなちがうことが当たり前です。みんなちがうその子の「ちょうどいい」を気づかせてあげる指導が本当の指導です。

Q165 絵を描くときに、保育者の思いを伝えつつ、子どもなりに自由に思い切り表現できるようなワクワクする導入や声かけの方法でよいアイデアがあれば教えていただきたい。

子どものワクワクをじゃましているものは、多くの場合、保育者の思いです。保育者の思いを子どもが描く前に伝えたら、子どもが自分でみつけたワクワクは引っ込んでしまいます。でも子どもは、大好きな先生(保育者)の思いを汲み取り一応ワクワクしてみせますが、自分でみつけたもの気づいたものでないとすぐにちがうことに意識がいかってしまうと思います。まずは子どもの思いを引き出すことです。そのためには保育者が謙虚になることです。答えをもっているのは先生ではなく子どもです。伝えるではなく、問うことです。まずは、そこから初めてください。

子どもは一人ひとり思いをもった人間です。みんなひっくり返してワクワクさせるアイデアなんて存在しません。あなたの思いが先にあるかぎりそんなアイデアは存在しません。子どもの思いが先になったとき、あなたが子どもによりそうアイデアは無限にあります。

Q166 人の顔の色を、紫色や緑色で描いたりぬったり、緑色で描いたりぬったりする子どもさんです。そのまま見守るべきなのか、何か声をかけた方がよいのか教えていただきたいです。

絵を描く活動は、画用紙の上ですることをその子が決める活動です。その子がその色で描くことに心地よさを感じていればまずは見守ることです。そして、その子のつぶやきに耳を澄ましその色を選んでいくわけを考えてみましょう。その絵についてその子の話をききましょう。きっとわけがあるはずで、

.....

子どもの絵でカタツムリの絵によくであう
あれはカタツムリが渦巻きだからと思う
カタツムリが渦巻いていなかったら
子どもの絵にカタツムリの絵は
もっと少なかったにちがいない

.....

Q167 この時期、先生ならどんな絵を描かせますか。5 歳児です。

描かせるというかわかりをやめましょう。紙とクレヨンがあれば子どもたち自身が描きたくなったら描きます。描きたくないときは描きません。ただ絵を描かせるということだけでなく 5 歳児にどんな体験をさせどんな力を育てるかということは指導者としていつも考えておかなければなりません。5歳の子は来年は小学生です。鉛筆をもって一時間ぐらい描きまくっても疲れず手を育てておく学習活動にスムーズに入っていけるでしょう。ハサミで丸い形が切り抜ける力も必要でしょう。絵の具で色水あそびをして赤青黄で緑や紫などの色がつくれることを知っておくことも大切です。自分が自由に描いた絵について単語でなく文でお話できる力も育てておかなければなりません。絵の良し悪し以上に絵を描く活動で何を育てるかが大切です。一人ひとりが今育っていることはちがいます。一律に同時に同じ力が育つわけではありません。日常の子どもの活動の中でさりげなく子どもに必要な体験ができる環境を用意することが大事ではないでしょうか。

Q168 発達が遅れている 5 歳児のことです。3 対 1 の加配対象児なのですが、最近顔が描けるようになりました。ここから次へすすめられる方法が知りたいです。

子どもは一人ひとり成長するスピードも、成長する能力の順番もちがいます。他の子と比べて遅れている点が目立つかもしれませんが、目立たないことで他の子よりできるようになったことがあるはずです。大人の都合で子どもは成長しているわけではありません。ちょっとした表情やしぐさに昨日のその子とはちがう点があるはずということを信じてその子に接していく、日々新しい出会いを用意し世界を広げていってあげてください。

Q169 常に虫、へび、きょうりゅうばかり描く子どもがいる(どんなシーンでも)。表現としては、認めてもいるし、楽しんでいる姿も認めているがどう働きかけていくとよいか。

いろんな絵を描く子といっしょにその子がいつも同じ絵を描いてもいっこうにかまわないと思います。この子が虫、へび、きょうりゅうを描いていられるこの時期って長い人生からすれば一瞬です。もし、大人になっても描きつづけていたら、芸術家か博士になっていることでしょう。描く内容にだけ注意を注ぐのではなく、描いているときのつぶやき、えがくことに没頭している時間、友だちとのかかわりなど観察してください。絵は同じでも 3 ヶ月もたてば何かが変わっているはずですよ。

Q170 画用紙の選び方がわかりません。いつも白ばかりになってしまいます。

主食は白いご飯でも、ときどき炊き込みご飯や焼き飯・・・いろいろできます。ご飯の種類を選び方は？まず第一はそのときの気分、次はどんなおかずがあるかですよね。画用紙も同じです。まずは気分です。最初は保育者の気分でもいいですが、本当は描く子どもの気分が一番大切です。でもご飯と同じで、子どものいいなりにならず、バランスよく好き嫌いをくろんな画用紙を体験させてあげたいと思います。

.....
描き心地って、大切だけど見えないよね
.....

Q171 四つ切り画用紙の一部にしか絵を描かない子どもに対してどう声をかけるとよいのか「もっと描く？」と言ってよいのか。

何かを思っている子どもの絵は描いたものも大切ですが、描かなかった隙間に子どもの大切な思いがかくれています。ただ、自由に描くことを楽しんでいる子に「もっと描く？」という必要はありません。描きたいだけ描けばいいと思います。園庭の隅で遊んでいる子が園庭を全部使って遊ばなくても問題ないはずですが、でも、たまには園庭全部つかって鬼ごっこしたり、かけっこすることを進めるように、「画用紙を〇〇でいっぱいにして」とか、「教室を海にしたいから画用紙を好きな青で埋めてくれない」とかさそつてみたらどうでしょうか。

Q172 2歳児クラスでお絵かきをするのに紙を提供する時何と言って渡すのか悩みます。何をいっても、その子の思いを止めてしまうような気がするし、かといって何も言わないとねらいがないような感じがするし・・・どうしたらいいか悩みます。

ねらいはその子の日常からみつけます。「最近手がよくうごかせるようになったな」とか「語彙がだんだん増えてきたな」とか「友達のしていることを意識するようになってきたな」とか「花や生き物に興味をもつようになったな」とか、お絵かきの活動はそれらをさらに成長させるためにとてもいい活動です。その子の日常からみつけたその子が体験してほしい活動を、先生が楽しくやってみる、その様子を見たその子が興味があれば、近づいてその子の方から声をかけてくるのではないのでしょうか。そこから、何がはじまるか、その子といっしょにみつけていけばいいと思います。

絵を描くのが上手い、下手というけれど
描きたいという気持ちがあれば
上手い、下手どちらでも絵は描ける

なにかを再現するときには
上手い、下手がたしかにある

再現と表現
上手いと下手

誰かに見せたいという気持ちがあれば
上手い、下手に関係なく見せればいい

これは絵を描くことだけではない

気に入った絵は、上手いか下手で決まらない。

この絵が好き それだけだ。

わたしの中にあるものを外に出す。

絵として外に出す。

自分の中にこんなものがあつたのかと

おどろく

そこに

上手い、下手は関係ない

生きることはどうだろう。

上手な生き方は再現

上手と下手に関係ない生き方は表現

むしろ下手のなかに本物の生き方がある

自分の人生という白いキャンバスは

上手くなるまで置いとけない

とにかく描かないと消えてしまう。

2018

Q173 子どもたち一人一人の絵の良いところを見つけたり、描いている様子を見守ったりすることを心がけて保育をしています。どのように声をかけていいのか毎回悩みます。

絵を描くことは子どもにとって日常です。特別なことではありません。子どもたち自身が楽しさを見つけいくことが大切です。特別な声かけはかえってじゃまになることもあります。声をかけるのではなく、そばにいてつぶやきを聞き取る、そして、そのつぶやきにあいづちをうったり、「もっとお話しきたいな」とお願いしたりすること大切です。どうしていいか困っている子がいてもすぐに助けるのではなく、困っている時間から自らの力で次のやりたいことをみつけていく過程をじっと見守る、そんなかわり方がいいのではと思います。

Q174 子どもは基本歩けるようになる力があるように絵の成長も、もともと子どもが持っている力があるのかなあと私は思い、それをじゃましない、そっとよりそう、見守ることを大事にしていますが、先生はどう思われますか。絵を描くことに抵抗がある子どもをなるべく増やさないためにできることはありますか。

じゃましない、そっとよりそう、見守るということからぶれないことが大切です。子どもの力を信じると決めたのならそこからぶれないことです。絵を描くことに抵抗があるというより、ただ今は描きたくないだけでしょ。描くこともあるし、描かないこともある、そういうことを自分で決められることが抵抗がないということです。

Q175 絵の具にふれるのがあまり得意でない子へのかかわりに悩みます。まずは見る(友だち、保育者がしているところを)時間を大切にしていますがそのかわりでいいのでしょうか。

はい、それでいいと思います。みる時間は何もしない時間ではありません。動物園の見学のように、みんなの取り組みを見て回れるようにかかわっていきましょう。はじめは、遠くから見守る、興味を持ち出しているなと思ったらいっしょに見て回る、やりたいけれどタイミングがない子には、先生がやってみせていっしょにやろうとさそってみる……くれぐれも強引にすすめないように。

Q176 一斉保育で絵の具を使う時、グループになって描くことが多い。子ども、絵の具、環境などの配置の仕方を聞きたい。

グループが先にあるのではなく、グループになってしまう環境がいいと思います。砂場あってそこに自然に子どもがあつまってくるという感じがいいと思います。先生が最初に大きな紙を床に広げて絵の具あそびをしていると、自然にあつまってくる子がそこに加わる。その場が狭くなったらもう一つ場をつくる、加わる子どもに合わせて絵の具あそびのコーナーが増えていく・・・

はじめからグループを決めて、絵の具あそびの説明をしてはじめるというより、最初に先生があそびを見せて、興味のある子から広がっていく。無理に全員にやらせる必要はありません。やらずに見ているのも大切な活動です。

Q177 3歳児の描画の活動で題材をもってかくとよいのか、自由にかき子どもに話を聞くのがよいのか、ねらいにもよりますが・・・

3歳の子どもは大人の注文を聞いて絵を描くわけではないでしょう。子どもたちがお絵描きしているときその子のつぶやきや話しかけることに耳を傾けてください。その中で描きたいことがみつかっていくと思います。紙いっぱい描くこともあれば、ポツンとひとつのものしか描かないこともあります。どちらでもいいのです。結果でなくそういう時間を大切にしてください。

Q178 絵を描く前の導入として見本(描いたもの)を見せることがあります。見せることで同じように描いてしまう子や、見ることで安心でき描き始める子など様々です。見本を見せる方がいい年齢や、見せる、片付けるタイミングはどうするといいいですか。見本はないほうがいいですか。

描く絵の見本を見せるのではなく、クレヨンや絵の具の使い方の見本を見せることが大切です。一本の線、一つの点、まる、クレヨンで描く時と筆で描くのでは感じがちがいます。そういうのは話を聞くより見るほうがいいです。

ただ自分の描きたいものを思い浮かべるために絵本などを見せてあげることはいいことだと思います。いけないのは「こんな絵に仕上げるのですよ」と描くものを示してしまうことです。

Q179 クレヨンやマーカーの持ち方について

間違っただけの持ち方のほうが力が入りやすいのか、描きやすそうにしている正しても間違っただけの持ち方にしている子がいます。持ち方の指導はどこまでしたらいいですか。

短くなったクレヨンに正しい持ち方なんてありません。絵の具を指や手につけて描くのも正しい描き方なんかありません。そういう自由な描く活動から始めたらいいと思います。鉛筆やお箸など正しい持ち方を教えるのはその次でいいです。まずは描くことは自由なんだということを感じ取ってもらうことを優先してください。

Q180 固定概念にとらわれてしまい、絵が描けない子にどのような対応をしてあげたらいいですか。例「おばけを描きたい」自分で描くが自分の思っているものと違うため紙をぐちゃぐちゃにしてしまう。

描くものを決めてそれを描こうとするとそうならないことのほうが多いです。そうならなくても楽しく描くためには、描くものを決めなかったらいいのです。

「まる」と「さんかく」と「しかく」と「うずまき」と「てん」と「ぐにゃぐやせん」そういうのを描いて遊んでいるうちにいろんなことが浮かんできて、描いた線が話しかけてきます。それがお絵かきです。

Q181 絵を描いている子どもに声をかけるタイミングが難しい。複数で絵の具を共有する時の環境

声をかけるよりいっしょに遊ぶことです。いっしょに遊んだら子どもたちが声をかけてきます。絵の具の用意の仕方はその時々でできるようにしたらいいです。あまり凝らないことです。お絵かきは子どもにとって日常の活動です。特別なことではないのですから。

Q182 絵に人や物の名前を描く子どもがいます。どのように声をかけたらいいですか。

自然な成長です。特別なことではありません。自分の描きたいものが自由に描けるのがお絵かきです。自分の大切なものや人であることがわかるように名前をかくのです。ことばとものと文字が一つにつながって自分の世界が豊かに広がっている証です。

Q183 一斉に絵を描く時に手がとまってしまう子がいます。どのように声をかけたらよいのか戸惑う自分がいるのですが。声をかけたほうがよいのか、その子が手を動かすまでまったほうがよいのかどう関わればよいのでしょうか。

手が止まっているときは頭と心がフル回転している時です。みんなが楽しく取り組んでいるからといってみんなに合わせる必要はありません。みんなのしていることを眺めている時間に育つこともたくさんあります。一斉に絵を描くというのは場の設定であり、「もしよかったらいっしょにしませんか」というお誘いです。みんなと同じことを「やらせる」のは保育ではありません。

Q184 隣にいる子どもの絵を真似して描いてしまう子への声かけの仕方は

絵を描く以外の活動はたいがい、「○○さんをお手本にしたらいいいよ。○○さん教えてあげてね」といったりしてませんか。絵を描く活動だってだれかの真似からはじめてなんの問題もありません。真似ではじめても必ず自分の表現になってしまいます。

Q185 保育者が予定していた技法以外をやりたいと申し出たら・・・(クラスでは一人だけ)

そういう子もついているのが当たり前とと思ってください。保育者の予定がすべての子にぴったりなんてことはありません。むしろ保育者の提案にひとりでもいいからやりたいと申し出たらその子とやったらいいだけです。

別のことをして遊んでいる子どももそのようすをみえています。その時間こそ大切な学びの時間です。少しずつやってみたいと思う子がふえていく。そして満足した子はそこから去っていく・・・そんな風にすすめていくと子どもたちのいろんな新しい一面を見つけることができるでしょう。

Q186 3歳児の担任です。様々な表現の仕方感じ方をしてほしいと思っているのですが、具体的に色々

な技法やあそびなどを教えてほしいです。

子どもはあそびと技法みつけの天才です。子どもたちのしていることから 学ぶこと、プライドを捨てて「先生に楽しいあそび教えて!」とお願いしてみましょう。

Q187 年齢に応じた(発達段階)画用紙のサイズ、技法(クレヨン・絵の具など)基本的な基準を知りたい。

発達段階はとても大切です。保育指針に詳しく書いてあります。参考にしてください。けれどもいちばん大切なことはその子が今どんなことをしているかです。大胆な活動をしたいのは、細々したことをしたいのか、先生がやってみせてたらずぐわかんと思います。

Q188 絵を描いている途中でどのくらいのペースで保育者が声をかけたらよいか悩む(全体に、個人に)

夢中になってあそんでいるときに話しかけられたらうとうしいと思うだけです。声をかけてほしい時は必ず子どもからなんらかのサインがあります。たいていは、先生を呼びにきます。同じ子ばかりにかかわっていないかだけ注意が必要です。先生が気になる子だけでなく、声をかけてお話す子を毎日順番に変わってあげてほしいです。

Q189 自信がなく描き出せない子どもが(4 歳)のびのび描く、絵が好きになる、題材技法等、どういったものが描きやすいのか…

のびのび描くためには、描かなくてもいい自由がないと不可能です。描きたい気持ちは、描きたくない気持ちがかかった時に生まれます。自信は無理強いされなければ自然育っています。自信のない子というレッテルをはるをやめましょう。

Q190 見本を見せるとそのまま似せようとする子もいる。いけないわけではないが、イメージの広がり欠ける気がする。

そう気がするだけです。心配しなくていいです。ただしいろんな絵を見せてあげてください。先生が見せるだけでなく、絵本などで好きな絵を子どもたちがみつけて描いたらいいと思います。

Q191 今、4歳児の担任をしています。どんな素材を使うと喜びますか。どんな素材だと苦手な子も楽しめますか。

カラオケにさそわれて歌が苦手な人は、歌うことを強要されるといやですね。でも、楽しそうに歌っている人を見たり、歌っている歌について話を膨らませたりできたら、歌わなくてもその場にいることが楽しいはず。どんな素材も合う子と合わない子は必ずいます。みんなが楽しいと思ったら疑ってください。無理してみんなに合わせている子がいると思ってください。

Q192 人の絵を描いている時に手や足をかけていない子がいたら「手は」「足は」と伝えていってもよいか。まわりを見て描けるまで見守る方がいいのか。

必ず人の絵を描かなければならない時というのは、まずないはず。子どもが自由に描いている時、

人になってしまうことや、描いた○を人にみだててお話しを膨らませていく、そういうのが子どもの絵です。

Q193 アクリル絵の具を使ったら筆やパレットがかたまって大変なことになってしまったらどんな使い方、片付け方をするとよいか。

アクリル絵の具をつかわないことです。アクリル絵の具を使わなければならないお絵描きは大切な活動ではないです。

Q194 絵の具を用意するとき何色くらい用意した方がよいですか。いつもこちらで混合して色は用意しています。子どもに原色から色混ぜをして色を作らせたほうがいいのか。

基本的には 赤、青、黄、白で十分です。原色で遊んでいるうちに勝手にまざっている色々な色があることに気がついていきます。色が混ぜられている色々な色ができることを子ども自ら発見できる機会を大切にしてください。

Q195 毎月、一枚ずつ絵を描くことが課題としてあるのですが、どんなことをテーマにすればいいのか、毎月悩みます。

子どもに描くという課題を課すのではなく、保育者が毎月その子の一番すてきな絵をみつけることを課題としてください。

Q196 子どもの絵(画面上)にその時描いた子どもの思いを書き込む人がいるが、それは別のメモをとった方がいいのでしょうか。子どもの絵をじゃましている気がするのですが。

別のメモをとった方がいいのは確かですが、いまこの絵でつぶやいていることをちゃんと残すほうが大切です。「きみのすてなところを忘れたくないからちょっと書かせてね」とお願いしてじゃまだと思うはまずいと思います。

Q197 動物など動くものの絵を描くとき導入や声かけなど工夫すればよいことなどありますか。動物など絵に描くことに苦手意識があります。

描くものを決めてから描き始めるわけではないです。描くという行為は自己内対話です。対話することを考えてから対話するわけではないです。自由に線を描くとき、いろいろな思いが湧き上がってきます。その心の中での対話の広がりや深まりが絵として現れているのです。子どもの絵は対話の手段です。やがて自己内対話から他者との対話に進んでいきます。その時も絵は対話を進める大切な役割を務めます。子どもの絵は絵が目的ではありません。豊かな対話を生み出しているかどうか大切です。

動くものを描くとき、動くものの形を描くのが目的ではないはずで、動いている、生きている動物に接したときの感動を線と色で表せればよいのです。

Q198 小さい年齢(0～2歳)で製作するとき、どんなテーマで製作しようか決めることを迷ったり、悩んだりします。わたしは、2月なら鬼など季節に合わせて決めるのですが、どういう風にしたらよいですか。

子どもたちのいつもいる場の環境を季節感やいろんな文化に浸れるように工夫することは大切です。ただそのことと製作を無理につなげる必要はありません。2歳までの子どもにテーマを意識させる必要があるでしょうか。その日その時のやりたいことを満足させてあげることがこの時期には大切です。

Q199 3歳児にオススメの技法や材料があれば教えてください。

子どもが進められなくても勝手にやっていることがその子どもにとって大切な活動です。砂場に行けばかかって穴を掘り始めると思います。いろんな色の絵の具の色水があれば勝手にまぜ始めると思います。白い紙とクレヨンがあれば勝手になにか描き始めると思います。なにかをやらせるのでなく何かはじまる環境があれば十分です。

Q200 「失敗した」という言葉に対して、どう受け止めて声をかけていったらよいのでしょうか。

絵を描くことに関わらず、失敗することはいろんな場面でいくらでもあると思います。自ら思いを持って行動しているからこそ失敗するのです。失敗するまでできたことを認めてあげたらいいと思います。

Q201 自分の顔を描きたいが、描き方がわからず悩んでいる子どもには、どのように声をかけるとよいのか悩んでいます。(鏡をわたして見られるようにしています。

自分の顔を描きたい・・・だれがそう思っているのですか。

丸をかいた、顔にみえてきた、この丸はわたし・・・それでいいのではないですか。描く活動は何かのかたちをうつすことではありません。自由に思いを線に乗せていくという心地よさ、感じ取らせてあげてください。大きな声を出して叫べばすっきりする。それに似ています。歌わなくてもいいのです。

Q202 黄瀬先生のおっしゃっていた絵本のように絵を読む、読み語るというのは今まで自分の中にない発想でとても興味深く是非自園でもやってみます。その時に際してこうした方がいいよということがあれば教えてください。

感じるままにやってください。絵本のように絵を読むというのは、絵本の読み方って決まってない、自由ということです。むしろ絵本を読むということが本当にできているのでしょうか。絵本なのに文字だけ読んでいませんか。

文字のないページをどれだけ楽しめるかということです。子どもの絵は文字のない絵本です。描いた子といっしょにその絵の世界で遊んでください。

Q 203 白い画用紙にコンテで下地をつくって絵を描きました。その下地は教師の意図で全員同じ向き(横線)に描きました。ななめやたてなど子どもの思いをいれた方がよかったですでしょうか。

他のクラスと比べてしまいのびのびと絵を描かせてあげることができません。

比べているのは子どもが描いた絵ですか。子どもの表情ですか。のびのびと描くということは結果がないゴールがないという設定で描くということです。

だまって黙々、小さな紙にこちょこちょと描く、はしりまわった時々描く、・・・

みんな のびのびです。子ども一人一人がみんなとはちがう「のびのび」を安心して出しているとき、となりのクラスとちがうことは誇らしいことです。

Q 205 顔の色をピンクでかいたり実際の色とちがう色で表現する子どもの姿をずっと認め続けていいのか、気づけるような声かけが必要か、5歳になってもいわなくていいのですか。

実際の色クレヨンとか絵の具は存在していません。なのにみんなが同じ色を顔の色にしている方がへんです。どんな色をつかっても正解です。

Q206 描いている途中で集中が切れどうしてもまわりの様子が気になり「もうやめる」という子がいます。どうすれば思う存分描ききれかなと思案中です。

描く活動はいつもあります。子どもにとって描く活動は日常です。調子のいい日もあれば悪い日もありません。そして絶好調の時というのは稀なのが当たり前です。「思う存分」というのは「今日はやめとこう」というのもあります。

Q207 まわりの友だちが絵を描いている中、画用紙を前にしても「かけない」と言って固まってしまう子に対して、どう声かけをしたらいいですか。

「今日はかかないのね、でもこの画用紙はあなたが描いてくれるをずっと待っているからね」といって、画用紙の裏のその子の名前を書いて、「大事に先生が預かっているから、描きたくなったらいいにきてね」でいいのでは、

みんなが描いているようすを見る、みんなが話していることを聞く、とても大切な時間です。先生もその子の横でいっしょにみんなのようすをみていたらいいと思います。

Q208 「絵が描けない」といって文字や数字ばかりをかいてみたり「先生が描いて」と自信がもてずにいる子どもへの言葉かけはどうしたらよいか。

「先生描いて」といってきたらチャンスです。「先生とおさんぽしよう」と

いっしょにうろうろしてください。みんなの描いているようすをいっしょにみてまわってください。

そんな日を何日かつづけて、みんながお絵描きしている時間は、その子にとっては先生とおさんぽする時間にするのです。

そして、「今日は、先生、この紙の上をおさんぽしたいんだけど」と先生がクレヨンで紙に線を描いていく、その横を別の色でついてきてもらうというのはどうでしょうか。くれぐれも無理強いしないでくださいね。

みんなが描いていて、その子が描かないからこそ、その子との時間をつくれるのですから、描く活動よりその時間がとても大切です。

Q213 絵を描いたり、作品を作ったりするとき「○○をつくりましょう」と言葉かけをするだけか、一つ一つ見本を見せて行うのとどちらがよいですか。一つ一つの過程すべてやり方を見せるのはいけないですか。

そもそも一つ一つ過程を見せないといけないような活動はやらなくてもいい活動です。決まったゴールに向かって活動するので、最初のきっかけだけがいっしょで、活動がはじまったら子どもたちが一人一人そ

のゴールを探して進んでいくのが子どもの活動です。

「空き箱をつなごう」これはスタートです。みんないっしょです。ただ長く長くつないでいく子もいれば、動物や家を作る子もいる、ちょっとだけつないでそれで遊びはじめる子もいる…いろんなふうに展開していく、れが子どもの活動です。それを認めた上で、先生からの提案がいろいろあるのはとてもいいことだと思います。

Q214 描き始めることに勇気がいる子。思いはもっているがペンをもつと止まってしまう。

クレヨンを持ち上げる(とめる)操作が難しい子に描くときに手を添えてもいいのか

忠実に描いてしまう、描くことができすぎる子に、多面での特徴があるだけにひっかかってしまう

いろんな「描く」があるのです。全部正解です。

Q215 絵を描く歳に、保育者は見本となるような絵(保育者の絵)を描かない方がいいのですか。

「こんなことしてあそびませんか」とやって見せるのはとても大切です。言葉の説明より、やって見せたらすぐわかります。活動を見せるのであって結果を見せるのではありません。

Q216 自由遊びに工作コーナーを設けていますが作品が途中で終わっていたり切ったら、貼ったらおしまいとなっていることが多いです。どのようにコーナー作りをすればよいのでしょうか。

作品を作るコーナーではなく、紙を切ったり貼ったりつないだりいろいろ試せるコーナーがいいです。中途半端な活動の積み上げが大切です。

Q217 一人ひとり個人持ちのお絵描き帳をもっているのですが、簡単になぐり描きをして、次々に新しいページに描いてしまい、すぐに紙がなくなってしまう。自由に描かせたいのですが、また保護者にかつてもらうとなると…

そういう特別な紙でなく、広告の裏やわら半紙などで十分です。新聞紙や包装紙やチラシなどの写真や文字が印刷してある紙の上にクレヨンで自由に落書きするのもいいでしょう。気軽に描く活動を楽しむことができます。

また、新聞の記事に合わせて色を塗り分けたり、文字を決まった色で塗りつぶしていったりなど、色遊びを楽しむこともできます。そうしていっぱい遊んだ紙の中から残しておきたいところだけを画用紙に貼り付けたらもう立派な作品です。

Q218 例えばザリガニは赤、空は青と決めつけてかたくなな子がいます。実物を見せたりするのですが決めつけているので見えないようです。どう声をかけたらいいですか。

そういう頑固な子もいていいし、まるっきり違う色で描く子もいていい、色も形も個々の子どもが感じたまま、思っているままでいいです。いろんな子が自分の思いと友だちの思いや表し方の思いに出会える場であればいいと思います。

Q219 たくさん描く、作ることに夢中で、作業のようになってしまう子がいます。本人は「いっぱいできた」満足感をもっているのですがその気持ちは受け止めているのですがどう声をかけるべきか悩んでいます。

「たくさん」が満足の子、ちょっとだけ「こだわり」に満足する子、いろいろな満足があります。子どもの満足感はその都度変わっていきます。だから、今、満足することを支えてあげてください。いつまでも同じ満足が続くことはありません。

Q220 3歳児で一つの作品をつくるのに二日日間に分けてもいいものか悩んでいます。

意図的に分けて取り組ませるとうまくいかないことが多いです。

でも、昨日の自分の絵を見た時つづきがしたいとその子が思った時うまくいきます。

子どもの活動は基本的にその場その場で完結しています。好きなことも嫌なこともその時で終わってしまいます。そういう時期は、そういう活動を大事にしてください。

Q221 3歳児で一つの作品をつくるのに「のりとクレパス」といったように二つの過程でもいいものですか。

はじめから二つの活動が過程の中でできまっているのはよくないです。クレヨンで絵を描いているうちに上から何か貼り付けたくなくなったとか、ハサミでいろんな形をきりぬいてあそんでいたら色をつけたくなくなった、さらに大きな紙に貼り付けたくなくなったとか、・・・活動が自然に広がっていくのはいいことです。でも全員がそうしなければならないというのは間違いです。

ひろがっていく子もいれば、同じ活動を繰り返し続ける子もいていいです。

一つの活動から始めていく。そしてそれがどう展開していくかは子どもたちにゆだねながら、先生からはいろんな提案をなげかけていく。それにのっかるのかどうかは子どもが決める。ということです。

Q222

子どもたちと絵を描くときに足りないと思つて多めに絵の具を準備してしまいがちです。残った絵の具をさらに楽しく使える方法を教えてください。

一般の水性の絵の具であれば、何度でも水で溶かして使えます。ただ残った絵の具を使い切りたいのであれば、片付ける前にダンボール箱を塗りつぶすとか、大きな紙に思いっきり落書きするとか、夏だったら自分の足や手に色をぬるとか、色水をつかってペットボトルに入れて並べて遊ぶとか、・・・いろいろ気軽にやればいいでしょう。

Q223

2学期から初めて絵の具活動をはじめます。(3歳児) みんなが楽しめる導入のしかた、何かよい方法があれば教えてください。

色水あそびなんかどうですか。いろんな色のジュースをつかってならべてみる、ペットボトルに入れて蓋をしてこぼれないようにしておいて。積んだりならべたりして遊ぶといいと思います。

Q224 クレヨンを4~5本まとめて持って描く子がいます。その表現を楽しんでいる

というよりは、雑、あきらめているように見えます。その子に対してどう声をかけていったら良いでしょうか。

絵をえがかなければならないという空気がながれていませんか。描きたくなければなにもしなくてもいいのです。みんなが絵を描いてあそんでいるようすをみているだけで、いろんな学びがあります。

なにもしない時間に、心は耕されています。雑になったりあきらめているよに先生が感じるのであれば、そっとその子に横によりそってあげてください。それだけでいいです。子ども片時も休まず成長しています。

Q225 1枚の絵を二日間かけて描くことがあります。だんだんとイメージや気持ちが薄くなってしまいうもいどうます。1日で描けるように教材や題材、手順を考えた方が良いでしょう。

15分ぐらいのできる活動を提供するように心がけてください。とりあえずやってみたらやりたいことがみつかった、もう一度やろう、またやりたいことがみつかった…結果として一時間たった、一日やった、次の日もやった。ということになるのではないのでしょうか。

Q226 きれいに描きたい、上手に描きたい、失敗したらどうしようという思いが強く描き出せない子に対してどういった支援をしたらいいですか。

きれいに、上手に、失敗しない活動の逆の活動をやればいいのです。先生からのお願い「きれいにいかけてはいけません。おもいきりきたなくかいてください。おもいきりくたにかいてください」といって始めてください。思わぬ傑作がうまれてきます。

Q227 エンジンがかかるのに時間がかかる子がいる。その子の表現ができるタイミングまでまってあげたいが、毎回なかなか難しく不完全に終わってしまうことが多い。どのように支援していくのがよいのか迷っている。

私の出会った4歳の子は、保育園で一枚も絵がないとお母さんがおっしゃっていました。エンジンがかかるのがおそいのです。もうみんなが活動に飽きてかたづけかけたころやっと描きはじめました。びっくりするほどのびのびとした楽しい絵をどんどん描きはじめました。なんと半日かかりました。そんな子もいること忘れないでください。

Q228 2歳児クラスでサインペン画をする際、子ども3人に保育者1人で活動するようにしていますが、サインペン画をしない子ども達は隣の部屋で遊んでまっています。他児が描く姿を見るようにしたほうがよいのか、2歳だからこそあえて他児の絵を見ない方がのびのびと描けるのか、どうしたら良いでしょう。

2歳の子どもは、まわりを見ても自分を一番大事にします。自分のやりたいことがみつかったらまわりがどんなに騒いでいても自分の世界にひたりきります。自分のしたいことがみつからないときまわりから探します。いろんな情報が得られる場、それが集団で同じ場にいる値打ちです。

Q229 なかなかイメージが持ちにくく(例、スイカの形はまるだとわかるがスイカの皮がどんなのかわから

ない)なぐり描きになってしまう。保護者は他の子との絵の差をすごく気にされている。どのようにイメージを持てるようにしたらよいか。(4歳児)

何かを描くのでなく、描いていたら何かになっちゃうのです。緑と赤で線遊びをしていたらスイカに見えてきた子、イチゴに見えてきた子…いろいろいいのです。何にもみえてこなくてただ線遊びをつづけている子もいいのです。

最初にスイカを描くことを全員が決めないほうがいいと思います。

Q230 絵の具遊びをするとき、支援の必要な子が紙以外にも描こうとする。紙に関心を向けにくい。

紙を使わない絵の具遊びからはじめましょう。色水あそび、絵の具を紙粘土に混ぜてつくった色粘土あそび…いろいろ絵の具で遊べます。紙に描くということにこだわる必要はありません。

Q231 Q&A のバックナンバーを読ませていただきたいのですが

今回 第 55 回の夏季研修会ではこれまでの全部合わせてお配りすることにしました。

2018 野洲保育研究会研修

Q232 0歳児クラスの絵の指導と遊びについて

0歳児は、表現するという内から外に向かう活動の時期ではありません。見えてくるもの、聞こえてくるもの、手に触れる感触、肌で感じる心地よさ…そういうものを受け取る時期です。外から内に向かう活動が大切です。自分では動くことができないこの時期、散歩に連れて行ってもらっているいろんなものを指先に触れる体験、温かな言葉がけなど、何気ない日常の体験を大切にしてください。製作とか技法とか絵の指導という言葉からは程遠い時期です。食べ物だって離乳食、薄味です。成長を急がしてはいけない、大切に見守る時期です。

Q233 0歳児の造形あそびはどんなのがありますか。

Q232 でも書きましたが、造形とかあそびとか考える時期ではありません。この世に生まれて、まだ数ヶ月、見るもの聞くもの触れるものすべてが新しい時期、じっとしていてもものすごい吸収力で学んでいます。柔らかいもの、硬いもの、ツルツルのもの、ザラザラのもの、気持ちのいい音、風、光、…すべて吸収しています。そして何よりも大切なのはそれらの体験とともに語りかけられる言葉です。話さなくても聞いています。さまざまな場で感情のこもった言葉がけをしてあげてください。

Q234 1歳児にとっての表現あそびで何か楽しいことがあれば教えてほしい。

1歳の子どもにとって楽しくないことを探すほうがむずかしいのではないのでしょうか。つかむ、つまむ、おす、ひっぱる、ひねる、ならべる、つむ、…そんなことができるものがまわりにあれば勝手にあそぶはずで。また、年上の子どもたちが遊んでいるようすを見ることも大切です。楽しいことのあこがれをどんどん貯めていってほしいと思います。今すぐとりかからなくても「やりたい」をどんどん貯めています。1歳だけでなく、すべての幼児は「やりたい」を貯めています。やらせようとするより、出会いの時間を大切にしてく

ださい。出会う時間とは取り組んでも取り組まなくてもいい時間です。やりたい子はやっている、そのようすをやらない子がみている、またはちがうことをしている、そんな時間です。先生はそんな出会いをどんどんつくってください。子どもは自分に必要なものを必要なだけ吸収する能力をもっています。心配しなくても必要でないことは素通りしていきます(おしつけなければ)。

Q235 未満児での色ペンやクレヨンあそびは何色からはじめたらいいですか。黒はとっておいた方がいいですか。

色との出会いは白ペンやクレヨンとの出会いで始まるわけではありません。青い空、黄色いタンポポ、緑の葉、身のまわりはさまざまな色であふれています。何色から出会わせるなんて考える必要はありません。ただ空をみたと、「今日はきれいな青色だね」というように、今、色と出会っているよということがわかる大人のつぶやきがとても大切です。そういう経験の積み重ねがあって色ペンやクレヨンの色にもその子のこだわりが芽生えてきます。そもそも、ペンもクレヨンも、色と出会うためのものではなく、線と出会うためのものです。だから何色を使ってもいいのです。もちろん黒でも。

Q236 2歳児クラスを担当しているのですがなぐり描きをする場面で、黒いクレヨンを入れておくと子どもたちは好んで黒色を選び、その他の色で描いたものが黒色で見えなくなってしまう。子どもたちが黒色を選ぶのはなぜなのか。なぐり描きをする時の関わり方を知りたいです。

黒は黒い紙以外は、一番はっきりみえるからです。毛筆も鉛筆も、普段使うのは黒です。子どもにまかせておけばいいと思います。クレヨンを走らせているその瞬間にあらわれてくる線を味わっているのです。そもそも最後にどう仕上げるなんて気にしていません。それがなぐり描きです。

Q237 2歳児でどんな描画活動を取り入れたらよいですか。

他のあそびと同じです。自由に使える紙やクレヨンが子どもの近くにある。それだけです。まわりの仲間が楽しんでいるのを見て、自然にやり始める環境があることが大切です。そのきっかけをつくるのが先生の大変な役割です。最後までやらせるのは先生の役割ではありません。いつからはじめるか、いつやめるか、どこまでやるか…それは子ども自身が決めることです。

Q238 2歳児、粘土遊びで、触るのはイヤではないが、「出来ない」と言ってすぐに、やめてしまう子どもが多い。無理強いせずに取り入れて、興味をもてるように工夫はしているつもりだが…どう興味を引き出せるのか。自分の引き出しが少ないので遊び方あれば教えてほしいです。

子どもはいつでもある園庭にいつも行くとは限らないでしょう。粘土がそこにあるからといって粘土あそびを必ずするというのではないというのが当たり前だという前提ではじめてください。先生の投げかけは「絶対やりなさい」ではなく「よかったらやってみませんか」です。

先生自身がまず、粘土あそびをはじめましょう。大きな塊を床にペタンペタンと落としてみる。粘土の塊の上ののってジャンプをする。広がった粘土を丸めて長くのばす。粘土の道をつくる、その上を裸足で歩く…そんなことをしていたら必ず子どもたちは寄ってきます。そしたら「いっしょにやろうよ」と始めればい

いだけです。ちょっと離れて見ている子がいてもいいです。いつでもやりたくなったらいつからでも始められる環境が大切です。

Q239 3歳児の絵画活動では想像性を広げるためにどのような声かけが大切ですか。

子どもは生まれた時から豊かな創造力をもっています。見えるもの、聞こえるもの、触れるものすべてから情報を蓄積し無限にイメージを広げています。そして信頼できる大人や仲間に知ってほしいと思っています。外に表す術(すべ)を知らないだけです。自由に表出できる環境をつくるのが大切です。声かけもその環境のひとつです。そして先生そのものが大切な環境です。

声かけという言葉コミュニケーション以上に、先生の表情や仕草という非言語コミュニケーションが特に大切です。わざとらしく振舞う必要はありません。素直にそのまま思ったこと感じたことを子どもの前でしめしていくのが大切です。

Q240 3歳児で顔が描けない子がいるのですが、見本のようなものがあつた方がいいのでしょうか？ それともいろいろな絵を楽しんで描いていく中で描けるようになっていくのでしょうか？

幼児の学びは小学校の教育課程のように1年でひらがながかけるとか、たしざん、ひきざんを理解するか決まっています。ゆるやかに一人ひとりの成長を大切にすることに心がけてください。家族や先生、ともだちの顔を見て見分けられれば、描けなくても大丈夫です。まだ3歳児です。いろんなことができる子どもいるでしょう。早くできるようになっても、ゆっくりできるようになっても、大人になったら一緒です。一人ひとり自分に一番無理のないペースで成長できるように見守ってあげてください。

Q241 3歳児 ぐるぐる描くことを楽しんでそのあとに意味付けをする子どもたちに、「〇〇を描こう」などテーマを与えないでいいのか？ 作品展もあり悩んでいます。

ボールで遊ぶとき、好き勝手に遊ぶ時間も必要です。でも「ドッジボールやろう」とか「的あてやろう」とか、こちらから持ちかけることもあります。お絵描きもいっしょです。自由にまかせる時間、テーマを決めて描く時間、紙の大きさや用具を決めて描く時間などいろいろあつたらいいのです。ただどんな投げかけもすべての子どもにぴったりということはありません。だからみんなとちがうことをする子がいて当たり前ということが前提でいろんな提案を遠慮なくやってください。

Q242 3歳児のクラス担任をしているのですが、子どもたちが簡単に楽しめるおすすめの教材はありますか。(道具など)

(絵の具やクレヨンをよく使っています。)

ならべる、つむ、つまむ、ひっぱる、おす、ひねる、つなげる、むすぶ、にぎる、すくう・・・などの手の操作があそびの中で自然に出てくる活動を考えてください。色水をカップやボトルに入れてあそぶ、落ち葉をならべる、石ころをならべたりつんだりしてあそぶ、毛糸、木切れ、ピンのふたなど身の回りのもので、感触、重さ、色、かたちなどのちがうものを手のひらで感じ操作できる体験が大切です。そういうものがある環境があれば、先生が活動を指示しなくても自然に子どもたちは遊びます。先生がやらせようとするのではなく子ど

もがやりたい、やってしまうことを存分にやらせてあげてください。

Q243 5歳児の描画活動で絵の具とパスなど、2種類以上使う時、2日に分けて描いたりする(絵の具が乾いてからパスで足すなど)。子どもの思いで伸び伸び描いてほしいと思っている自分と2日に分けることで思いが分断されてしまうのでは?と悩むことがある。

次の日、昨日の続きを描きたいか、新しいことをしたいかどうか、子どもによってちがうはずです。子どもに聞いて子どもたち自身がいいです。

Q244 5歳の題材でおすすめのもの(体験したこと、絵本を見てなどは取り組んでいます。)

本来、描くことやつくることは子ども自身で決めるものです。ただ自分で決めるためには、できることとできないことを「知る」ことが大切です。知らない描き方作り方を知らせるのは先生だけではありません。友だちからも、周りの環境からも知ることができます。先生の提案はその一つです。すべてを先生が誘導するのはおすすめできません。

題材というよりあそびの提案です。クレヨンも絵の具も、作品をつくることから離れていろんなあそびで使いこなしていければいいと思います。そんな題材は山ほどあります。時間が空いているときであればあなたの園の子どもたちと遊ばせていただきます。今年もクレヨンあそび、えのぐあそび、粘土あそび、毛糸あそび、空き箱あそび・いろいろな子どもたちとあそびました。

Q245 5歳児です。絵に自信のない子が多く、描く前から「描けへん」「どうして描けばいいかわらへん」と言っています。どのようにして自信(力)をつけていってあげればよいでしょうか?

本当に自分がしたいこと描きたいことではないのでしょうか。先生から「何々を描こう」と言っていないか。先生と同じ思いの子は描きますが、そうでない子はしません。「自信のあるなし」は夢中になって遊んでいるときには必要ないものです。一人ひとりのやりたいことに耳を傾けましょう。「おにごっこする人この指とまれ」といっしょです。描きたい子が描けばいいのです。描かなくても楽しく描いている子のそばで別のあそびをしていても子どもは描く楽しさを吸収しています。

Q246 5歳児女の子で、どう描けばいいのかわからない気持ちが強いようで隣の子の絵を見ながら同じようにまねして描く子がいます。それは、その子の表現としてどのような言葉をかけたらいですか?

子どもの生活はほとんどがあそびです。お絵描きもあそびです。あそびはあそび方がわからないときはいっしょにあそんでいる子のまねをします。だからまねをすることはごく当たり前のことです。絵は一人一人が必ず自分で描いた作品をしあげなければならないというのは思い込みです。たまたま展覧会の募集がそうになっているだけです。子どもたちにとって絵はコミュニケーションです。いっしょに一枚の紙に描きこしたり、まねっこしてあそんでもいいのです。いろいろなあそび方の一つとして一人で自分の作品をつくる「一人あそび」があるだけです。

Q247 何を描いたか聞いていますが5歳児なら聞いてもいいですか。(まだ経験の少ない子は聞か

い?)

まず描いている子の横にすわり、いっしょに描いている絵を見て何が描かれているのか考えてください。描いた絵を見ても何を描いているかわからないというのは、その子の絵を否定していることです。「何を描いているの」と聞くより「絵のお話聞かせてくれる」という問いかけのほうが自然です。

Q248 5歳児、箱製作(立体)ができるコーナーがあり、箱やストロー、キャップなどをくみたててあそんでいます。今、あるものを無造作にくっつけてあそんでいます。テープやのりの使い方なども伝えるのですが、中々浸透せず…。遊びとしてどのように声かけ、支援すればいいでしょうか。

その都度伝えていくことが大切です。でも一番大切なのは先生が正しく使ってみせることと楽しんで使うことです。ゆっくりゆっくり育つ「めばえ」の時期は、ゆっくりゆっくりでいいのです。

Q249 描き始めるまでに時間がかかる子がいた場合強制はしないが園での作品が仕上がらない。その場合はどういった働きかけをしていったら

すぐ始める子、ゆっくり始める子、ものすごくゆっくり始める子、いろんな子がいます。そろわないことが当たり前です。もしみんなちゃんとそろっていたら、辛い思いをしている子がいると思ってください。

幼児期の発達の仕方は、みんなちがって当たり前、その当たり前から活動の環境を用意して下さい。

同じ時期に同じ時間で同じテーマの作品づくり、とりくんでもいいけれどそろわないのが当たり前、いろんな活動の中でその時々ピカッとひとりひとりの活動の跡が残して発表できたら最高です。

Q250 子どもにはさみを教える時はどうしたらよいですか。

先生の膝の上に座らせて、子どもの目の前で、はさみを使っていろんな楽しいものをお話しながらつくってみせてください。1日どこかでひとり、みんな全員、先生の膝の上でお話しながらはさみの使い方を身につけていくと思います。

Q251 折り紙の折り方を教える際の有効な指導法

はさみと同じ、膝の上に座らせて、同じ目線でいっしょに折っていったらいいと思います。

Q252 経験画を描く活動をすすめたい時に画用紙いっぱい一つ二つのものを大きく描いてほしいという思いをもっていますがクレヨンで小さくたくさんもの描こうとする姿に対してはどうすればよいのかわかりません。(クレヨンやパスだと細かい絵は難しいのに…という思いです。

大きく描くか小さく描くはその子の勝手です。

紙いっぱい大きく描く経験をさせたいのなら経験画ではなく、線あそびや絵の具あそびがいいでしょう。大きな紙に小さく描いて、自分のまわりの広さを感じている子どももいます。広い青空の下でみんなで遊んでいる姿を想像しながら、描いている子はきっと小さく描くでしょう。幼児は経験したことを思い出して描くとき、夢中になればなるほど、視線が動かないので狭い視野の中にすべてを描きます。当然小さな絵になります。

Q253 いつでも絵の描ける環境を用意したほうがいいのですか。

いつでも走れる園庭があるように、いつでも絵を描ける環境が必要です。広告の紙の裏に、クレヨンで描いて遊ぶ…そんな環境で十分です。たまにあるスペシャルな環境より、いつもの普通の中に絵を描く環境があることで子どもは成長できます。

Q254 むり絵はいつ頃からはじめると良いのか教えていただきたいです。

遊び道具の一つとしてであればいつからでもいいです。

無理にやらせなくてもいいと思います。

なぜならば、線あそびがまずスタートだからです。

Q255 セロテープ、ビニールテープなど製作で使っている物と物とをくっつける、つなげるというより、テープを切ってはる事が楽しいようである。使い方の指導をどうするのか、どのタイミングでことばをかけていくのかわからない。

養生テープなら何回も貼り直しができるので、つなぎなおしややりなおしができると思います。

Q256 製作好きな子どもを育てるには何が必要か

園は「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う(保育指針)」場所です。望ましい未来をつくり出す力を培うのではありません。望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うのです。力を培うのでなく力の基礎を培う、ここが大事。「芽生えを培う」のです。

今、取り組んでいる姿をゴールにはしてはいけません。製作好きな子どもに育てるのではなく、将来子ども自身が製作好きな自分を選びたくなったときその力をつくり出せる体験が用意されていることが大切です。

Q257 子どもが絵を描いている時について「何を描いているの」など聞いてしまいがちでしたが、今日のお話を聞いてその質問をしている間も子どもたちにとっては大切な瞬間であることが分かりました。

でも、そういう子にどうかかわったらいいのでしょうか。

まず、子どもの横によりそってください。先生の一言をまっている子もいます。いつもそつとしかなければならぬわけではありません。コミュニケーションは言葉だけではありません。向き合うのではなく横に同じ目線で寄り添うと、その子が何を感じているのか伝わってくるはずで、そしてなにも言わなくても横にいて自分の活動を認めてもらっている安心感を子どもも感じているはずで。

Q258 製作をしていて大人が見て見栄えがいい時に子どもが製作しているのを中断することは子どもにとっていいのか知りたいです。

「大人が見て見栄えがいい」、すべての大人が見栄えがいいと思えるかたちなんかありません。子どもが主体的にしていることは、たいてい理にかなっています。大人の早合点で「見栄え」を決めないでくださ

い。子どものすることは、未熟なかもしれないけれど子どもにしか感じられない見えない世界があることを忘れないでください。

Q258 人の描き方が知りたいです。

2歳から3歳ごろになると、線の描き始めと描き終わりがつながって「まる」ができます。「まる」が描けるようになるとその「まる」を自分や身近な人に見立てはじめます。人のかたちを描くのではなく人に「見立てる」のです。この「見立てる」力がとても大切です。人のかたちになっているかどうかは大したことではありません。いろんなものに直に「ふれる」、はだしで地面に「立つ」、体全体で「ころがる」・・・そんな体全体を感じられる活動の積み重ねが、人のかたちを描けることにつながっていきます。

Q259 とっても小さく絵を描く子どもにもっと大胆に描けるようにするにはどうすればよいですか。

絵は大胆に描かなくてもいいです。食べる量も着る服のサイズもみんなちがいます、今の自分にちょうどいい大きさを描くことを認めてあげてください。いろんな体験をしていく中で、必ず絵も体も成長していきます。

Q260 絵の具を手でさわることやのりや粘土など、感触が苦手な子にどのような遊びを取り入れるとよいか。絵の具ならタンポ、筆をつかったりのりではなく両面テープをつかったりしているが、その他の方法は？

苦手なことはともだちにやってもらえばいいのです。みんなでいっしょに助けあったり支えあったりするとより楽しくなることを体験できるチャンスです。さわるのが苦手な子は、それら(絵の具、のり、粘土など)でやりたいことをそれらの活動が得意な子に頼めばいいのです。アイデアはやイメージはあるけれどさわれない子と、さわられるけれどイメージがなかなかわかない子が助け合うことは互いにとてもいい学びになります。

Q260 子どもたちとお絵描きをするとき大人も混ざっていいのか？ 混ざったときの注意点はあるのか？

子どもも大人も人間です。お絵描きすめのは「人間」としてとても大切な活動です。お絵描きは本当は子どもに必要なのではなく「人間」に必要なのです。大人も遠慮なく混ざってください。横で大人に「見張られて」いたら子どもは伸び伸び描けません。

Q261 子どもからかいてほしいと紙を持ってきたとき、かいてもいいのか？ 気になる。

お絵描きはコミュニケーションの一つです、話しかけられたら返事するように、お絵描きも描いてあげたらいいと思います。ただそれがその子が描くきっかけになるような声かけや描きかたを工夫してください。例えば「つづきを描いて先生に見せてね」とか「いっしょにお話考えようか」などどうでしょうか。

Q262 クレヨンやペン、絵の具を上手に活用したいです。組み合わせのコツや活用法の例などあれば知りたいです。

組み合わせより、クレヨン、ペン、絵の具、個々の取り組みを大切にしてください。幼児の活動は、その時がすべてです。クレヨンだけでも擦ったり、重ねたり、削ったりいろんな遊びかたが工夫できます。幼児の活動ではほとんど組み合わせる必要はありません。(組み合わせてはいけないということではありません。必要がないだけです。)

Q263 黒色のクレヨンだけで描いたり黒でぬりつぶす子どもは心理的に問題(心配)があると、よく言われていますがどうなのでしょう？

問題があろうがなかろうが自由にクレヨンで紙に感情を出し切るとはとても大事なことです、黒色が一番描きやすいのです。どの色とも混じることなく自分の思いを吐き出すことができます。吐き出すことができてきていることそのこと自体が大切です。

Q264 空き箱を使って箱製作をする際に作品を作ることよりも箱を集めることの方に夢中になりなかなか製作物ができません。どう伝えていくとよいですか。

幼児にとって製作ということを目的にするのはまちがいです。空き箱を使って遊ぶ「積むことが目的です。「集める」「並べる」「積む」「壊す」「つなげる」・・・いろんな活動をしながらか「みたく」がはじまります。「自動車」「動物」「家」・・・いろんなものに見立てていきます。言葉とつながり、仲間とつながり遊びが広がります。そら遊んだ結果が子どもたちの作品です。きれいに仕上がったものより、いっぱい遊び込んで壊れかけた「箱のあつまり」のほうがすてきな作品であることを知っておいてください。

Q265 ぱっと絵を描いてしまっただのあそびに行ってしまう子にはどうしたら絵に興味を持つようになるのか？ゆっくり描くようになるのか？

子どもたち一人ひとり興味のあることはちがいます。成長の仕方もちがいます。みんなが絵に集中できるなんてことはまず無理、というよりそんな状態は異常です。さっさと終わって次の遊びを始める子もいれば、ずっとやめないで続ける子もいます。始めるのも終わるのも自分で決められることが大事です。さっさと終わる子よりずっと続けている子に給食やおかえりの時間が決まっているのでやめてもらわなければならないことの方が本当は悩まなければならないことです。

「ごめんね、もっと続けたいのはわかるけれど、つづきは今度にしてね。」とお願いするしかないと思いますが。

「何を描いているの？」なんて聞かないでね。

大人はすぐに美を追い求めるけれど

本当は、美が私たちを追いかけてくるの。

一瞬、一瞬の色と形の語らいを楽しんでいるの。

「何のために？」なんて聞かないでね。

答えている間に、すてきな「今」が通り過ぎてしまうから。